99th

NHKSO

NHK SYMPHONY ORCHESTRA

TOKYO

Philharmony

September 2025

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

9

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

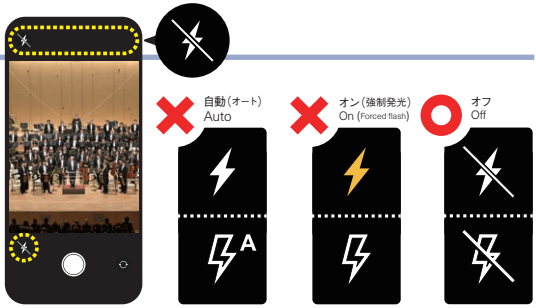
You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on “flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡（カミナリマーク）を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン（強制発光）」「自動（オート）」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは57ページをご覧ください

こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.

私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.

大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.

発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting “Bravo.”

演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
（終演時のカーテンコールをのぞく）
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS
SEPTEMBER 2025

9

3 「N響100年記念 個人サポーター」の募集について

4 ツアー報告 **NHK交響楽団ヨーロッパ公演2025**

19 ［公演プログラム］ **Aプログラム**

25 ［公演プログラム］ **Bプログラム**

31 ［公演プログラム］ **Cプログラム**

2 NHK交響楽団メンバー
42 2025年10月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
44 チケットのご案内（定期公演2025年9月～2026年6月）
45 2025–26定期公演プログラム
48 特別公演／各地の公演
52 特別支援・特別協力・賛助会員
56 曲目解説執筆者／Information（退団）／N響の出演番組
57 みなさまの声をお聞かせください！
58 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

59 Program A
63 Program B
67 Program C

71 The Subscription Concerts Program 2025–26
74 N響関連のお知らせ
75 N響の社会貢献
76 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ
名誉音楽監督:シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者:パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太
ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調
飯塚歩夢
○宇根京子
大鹿由希
○倉冨亮太
後藤 康
小林玉紀
髙井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
横山俊朗
米田有花
＊清水伶香
＊湯原佑衣

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小畠茂隆
＊栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
♯御法川雄矢
○村松 龍

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小畠幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洸一
宮坂拡志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
♯中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
＊中村周平
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
＊堂面宏起
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
＊大内秀介
佐藤由起
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎久保昌一
☆植松 透

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

https://www.nhkso.or.jp/
about/member/index.html

（五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、♯インスペクター、＊契約）

「N響100年記念 個人サポーター」の募集について 10/31(金)まで

NHK交響楽団は、1926年10月5日に「新交響楽団」の名称で結成されて以来、今日に至るまで、世界一流の指揮者やソリストたちと数多く共演を重ね、国内最高峰のオーケストラとしてたくさんのファンの皆様に愛されてまいりました。
そしてついに、数々の名演に彩られたその歴史は、2026年に「創立100年」という大きな節目を迎えます。2026年1月からのこの特別な1年に、N響は記念となる公演の数々をはじめ、さまざまな記念事業を行う予定です。
多彩な取り組みを通じて、長い歴史を支え応援していただいたすべての方々への感謝と「次の100年」に向けた私たちからのメッセージをより多くの皆様にお届けしたく、これらの活動を応援してくださる「N響100年記念 個人サポーター」を広く募集し、歴史の1ページにお名前を刻ませていただきたいと思います。
ぜひ、皆様の温かい応援をお願い申し上げます。

募集期間	**2025年4月～10月31日(金)まで**
寄付額	**1口10万円**(最大5口まで)

※ お申し込み方法など詳しくは、N響ホームページまたはお申し込みページ(右記QRコード／外部サービス「コングラント」のページとなります)をご覧ください。
※ N響は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は国内における税制上の優遇措置の対象となります。
※「N響100年記念事業」の概要は、2025年10月上旬の発表を予定しています。

2025年5月、NHK交響楽団は首席指揮者ファビオ・ルイージの指揮で、
5年ぶりにヨーロッパ公演を行いました。今回は5か国6都市で8公演を開催。
ファビオ・ルイージとの初めてのヨーロッパ・ツアーの様子をお伝えします。

NHK交響楽団 ヨーロッパ公演2025

NHK Symphony Orchestra Europe Tour 2025

指揮◎ファビオ・ルイージ

5年ぶりとなった今回のヨーロッパ・ツアーは、私たちにとって特別に意義深いものでした。それは、首席指揮者ファビオ・ルイージとは初めての本場の地を巡る旅であり、その大半は当地の著名な音楽祭に招かれた大変栄誉ある舞台だったからです。世界有数のオーケストラとともに出演したアムステルダムでの「マーラー・フェスティバル」をはじめ、各地の公演で盛んな喝采を受け、現地のメディアにも驚きと賞賛をもって迎えられました。ツアーは全てがほぼ満席となり、大成功のうちに終えることができたと考えています。N響は来年、創立100年を迎えます。このようにN響の演奏が海外で評価を受け、存在感を示すまでに至ったのも、先人たちの努力や共演した優れた音楽家の助力、それに私たちを支えてくださった支援者やお客様のおかげです。N響は、これからもより良い演奏をお届けし、日本の音楽芸術の発展と世界発信に力を尽くして参ります。今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。（中野谷公一／NHK交響楽団 理事長）

2025年5月11日、マーラー・フェスティバル（アムステルダム・コンセルトヘボウ） ©Milagro Elstak

ヨーロッパ公演2025 プログラム

プログラムA

マーラー／交響曲 第3番 ニ短調

メゾ・ソプラノ：オレシア・ペトロヴァ
女声合唱：オランダ放送合唱団
児童合唱：オランダ児童合唱団

プログラムB

マーラー／こどもの不思議な角笛
—「トランペットが美しく鳴り響くところ」＊
「浮世の生活」＊「原光」＊「死んだ鼓手」＊「少年鼓手」＊
マーラー／交響曲 第4番 ト長調＊＊

バリトン：マティアス・ゲルネ＊
ソプラノ：イン・ファン＊＊

プログラムC

グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
マーラー／交響曲 第4番 ト長調＊

ピアノ：ルドルフ・ブフビンダー
ソプラノ：イン・ファン＊

プログラムD

武満 徹／3つの映画音楽
ベルク／ヴァイオリン協奏曲
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

ヴァイオリン：諏訪内晶子

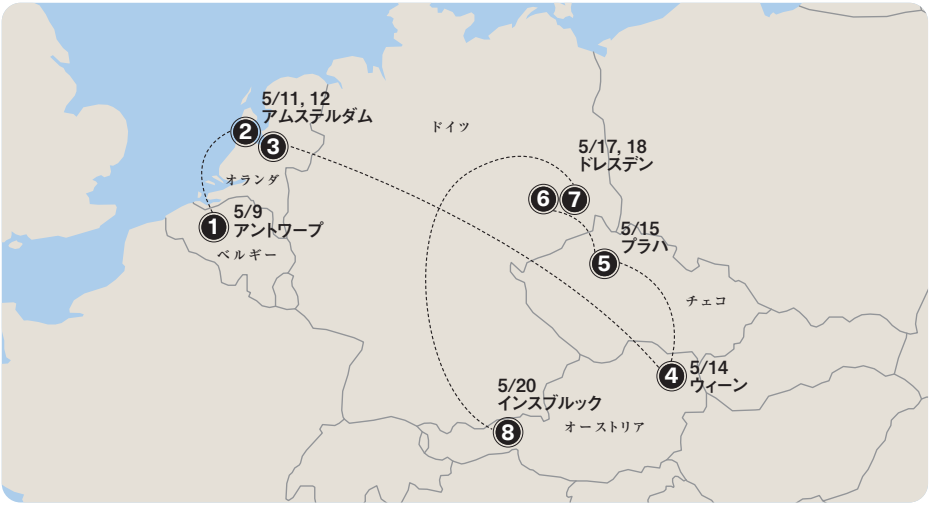
プログラムE

ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1
マーラー／交響曲 第4番 ト長調＊

チェロ：ヤン・フォーグラー
ソプラノ：イン・ファン＊

指揮

ファビオ・ルイージ
（NHK交響楽団 首席指揮者）



[助成] 文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（国際芸術交流））｜独立行政法人日本芸術文化振興会

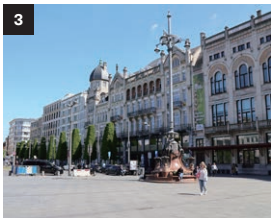
[協賛] ANA Iwatani AISIN JR-EAST MITSUBISHI ESTATE MIZUHO Mizuho Bank

5/9 Fri 8:00pm

Antwerp

アントワープ(ベルギー)
エリーザベト王妃ホール
[プログラムC]

首席指揮者ファビオ・ルイージとめぐる初めてのヨーロッパ・ツアーは、ベルギーのアントワープから始まりました。「世界一美しい駅」とも言われるアントワープ中央駅のすぐそばにある、エリーザベト王妃ホールには多くの聴衆が訪れました。名匠ルドルフ・ブフビンダーのグリーグ《ピアノ協奏曲》で幕を開けたコンサートは、イン・ファンの深くつややかな歌声に導かれてマーラー《交響曲第4番》が終わると、ブラボーの声が飛び交い客席は大いに沸き立ちました。



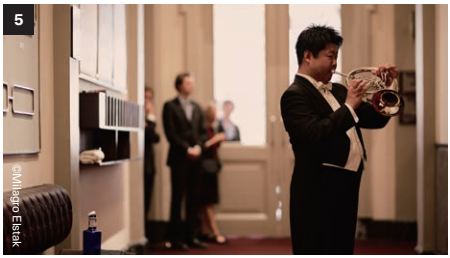
1. 終演後、総立ちの聴衆から大きな拍手が送られた
2. マーラー《第4番》のソプラノ、イン・ファン
3. エリーザベト王妃ホール

5/11 Sun 8:15pm

Amsterdam

アムステルダム(オランダ)
コンセルトヘボウ 大ホール
[プログラムA] 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演

1920年に始まり、今回が史上3回目の開催となるマーラー・フェスティバル。参加する世界最高峰のオーケストラがマーラーの交響曲を順番に演奏します。この日N響が担ったのは、演奏者に高い技量を求めることで知られる《交響曲第3番》。前日の10日にベルギーからオランダへ移動し、合唱団との練習を経て迎えた本番当日。気迫のこもったオーケストラの演奏に、オレシア・ペトロヴァの陰影に富むドラマティックな歌声と、地元のオランダ放送合唱団(女声合唱)、オランダ児童合唱団の清冽(せいれつ)な歌声が加わります。ルイージの情熱的かつ繊細な指揮にドライブされて最後の6楽章が終わると、満席の会場はスタンディング・オベーションとともに大きな歓声と指笛が飛び交い、熱狂に包まれました。



5/12 Mon 8:15pm

Amsterdam

アムステルダム(オランダ)
コンセルトヘボウ 大ホール
[プログラムB] 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演

N響は2020年のヨーロッパ・ツアーでもコンセルトヘボウを訪れています。この時の演奏を聴いたフェスティバルのディレクターからオファーを受けて、今回の「マーラー・フェスティバル」出演が実現しました。この日は、世界的バリトンのマティアス・ゲルネを迎えて《こどもの不思議な角笛》で始まりました。《交響曲第4番》の最後の一音がホールの静謐(せいひつ)の中に溶け込み、マエストロのタクトが下りると、息をのんでいた客席から万雷の拍手が送られました。

2日間にわたるN響の公演は、いずれもチケット完売の盛況ぶり。さらに「マーラー・ナイト」と題した公園でのパブリック・ビューイングや、現地放送局の生放送、ストリーミングでのリアルタイム配信とアーカイブ配信を通じて、演奏の感動が広く共有されました。

4. マーラー《第3番》のソロを担ったオレシア・ペトロヴァ(メゾ・ソプラノ)
5. ポストホルン(長谷川智之)はステージ後方に位置する2階客席廊下から音を届けた
6. 終演後、満場のスタンディング・オベーションを受ける、ルイージ、イン・ファン(ソプラノ)、N響メンバーたち
7. マティアス・ゲルネ(バリトン)の豊かな歌声がホールを満たす
8. 9. コンセルトヘボウ近くの公園では、両日リアルタイムのパブリック・ビューイングが行われた
10. コンセルトヘボウ

コンセルトヘボウによるハイライト動画(YouTube)をご視聴いただけます。
詳しくはN響ホームページをご覧ください。
https://www.nhkso.or.jp/news/20241101.html

5/14 Wed 7:30pm

Vienna

ウィーン(オーストリア)
ウィーン・コンツェルトハウス 大ホール
[プログラムC]

オランダから向かった次の公演地はオーストリア。音楽の都ウィーンでも有数の歴史あるホールとして知られる美しいウィーン・コンツェルトハウスに、N響の演奏が5年ぶりに響きました。マーラーゆかりの地での《交響曲第4番》は、ツアー前半の折り返しにふさわしい一夜に。満席の会場から送られた温かい拍手が、オーケストラにとっても忘れがたい思い出となりました。

11

12
©Carlos Suarez

13

11. マーラー《第4番》は調弦を変えたヴァイオリンのソロがある。その演奏を担ったコンサートマスター郷古廉とマエストロが互いをたたえる
12. 拍手に応えるルドルフ・ブフビンダー(ピアノ)
13. ウィーン・コンツェルトハウス

5/15 Thu 8:00pm

Prague

プラハ(チェコ)
ルドルフィヌム ドヴォルザーク・ホール
[プログラムD] 「プラハの春 音楽祭」参加公演

ウィーン公演の翌日、バスに5時間以上揺られて到着したのはチェコ・プラハです。N響がこの地を訪れるのは実に42年ぶりのこと。開催80回目を迎えた歴史ある「プラハの春 音楽祭」の招待を受けて実現しました。メンバーは長距離移動の疲れも見せず、夕方から今回のツアーで初めて披露す

14
©Prague Spring Festival / Petra Hajská

る3作品のゲネプロに臨みます。そして夜8時にコンサートが開演。美しい会場のルドルフィヌムは満席のお客様の親密な空気にあふれ、最後のブラームス《交響曲第4番》が終わると惜しみない拍手とブラボーの声援が送られました。

14. 本ツアー初登場の諏訪内晶子を独奏に迎えベルク《ヴァイオリン協奏曲》を披露
15. 音楽祭のシンボル色のブルーで飾られたルドルフィヌム
16. 会場から道1本をへだててヴルタヴァ川(ドイツ語でモルダウ)が流れる

5/17 Sat 7:30pm

Dresden

ドレスデン(ドイツ)
聖母教会
[**プログラムD**] 「ドレスデン音楽祭」参加公演

チェコから移動し、つづいて訪れたのはドイツ・ドレスデン。「ドレスデン音楽祭」の招聘(しょうへい)を受け2日間にわたり公演を行いました。音楽祭の「プレ・オープニング・コンサート」となった1日目は、街のシンボルともいえる聖母教会が会場です。ドームが美しいこの教会は第2次世界大戦の爆撃で崩壊し、2005年に再建されたという歴史をもちます。祭壇の前に設けられたステージでは、ベルクが「ある天使の思い出に」捧(ささ)げた《ヴァイオリン協奏曲》を諏訪内晶子の独奏でお届けし、「愛」を今年のテーマに掲げた音楽祭に寄り添いました。

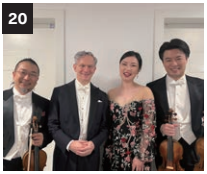
17. 教会の天井ドームまで吹き抜ける広い空間にオーケストラの音が響きわたる

5/18 Sun 6:00pm

Dresden

ドレスデン(ドイツ)
文化宮殿 コンサートホール
[プログラムE] 「ドレスデン音楽祭」参加公演

ドレスデン公演2日目、N響が「ドレスデン音楽祭」のオープニングを華やかに飾りました。地元放送局によるラジオ生中継も行われる中、音楽祭の芸術監督を務めるヤン・フォーグラー氏がソリストとして登場し、ハイドン《チェロ協奏曲第1番》で幕を開けました。続いて演奏されたマーラー《交響曲第4番》は、今回のツアーを通じて4回目の披露。ソプラノのイン・ファンとともに、文化宮殿を埋め尽くした聴衆を魅了しました。



18. ヤン・フォーグラー(チェロ)
19. 文化宮殿の客席はステージをぐるりと囲む
20. 終演後、4公演をともにしたイン・ファンと(左から、長原幸太、ファビオ・ルイージ、イン・ファン、郷古廉)

5/20 Tue 7:30pm

Innsbruck

インスブルック(オーストリア)
コングレス・インスブルック チロル・ホール
[プログラムD]

N響ヨーロッパ公演の最後となる8公演目は、再びオーストリアに戻り、チロル州の州都インスブルックで行われました。会場は雪をいただくアルプスの山々をのぞむコングレス・インスブルック チロル・ホールです。ブラームス《交響曲第4番》の終演後には、集まったお客様から温かく力強い拍手がオーケストラに送られ、2週間にわたるN響ヨーロッパ公演が幕を閉じました。

21. 3公演をともにした諏訪内晶子(ヴァイオリン)
22. コングレス・インスブルック
23. ツアーを締めくくったブラームス《交響曲第4番》

今回のツアーは、史上稀(まれ)に見る成功だったと思う。有名な音楽祭から相次ぎ招待を受けたこと、理想的な響きの会場で、得意のマーラーとブラームスを演奏できたこと、無理のないスケジュールが組めたことなど、様々な要因がプラスに作用して、メンバーの士気と集中力は最後まで途切れることがなかった。

中でもマーラー・フェスティバルの《第3番》は、長年N響の実演に接してきた筆者がベスト1と評したくなるような、神がかった演奏だった。長大なソロを吹くトロンボーンの古賀光、ポストホルンの長谷川智之をはじめ、急所難所がことごとく決まり、その度に私は、隣に座っていたルイージの奥さんと目配せして、喜びを分かち合ったものだ。

コンセルトヘボウは、マーラー自身が初演の指揮をした由緒あるコンサートホール。独特の緊張感が漂う大舞台で、このような最高のパフォーマンスを成し遂げた仲間を、心から誇りに思う。

客席も大いに盛り上がり、終演後には周囲から最大級の賛辞をもらったが、ある新聞批評に「無名のオーケストラ」「誰もがネットで検索した」と書かれたのには脱力した。記事を掲載した新聞を私も検索してみたが、オランダでは定評のある大手のようだ。共演するアーティストたちから、世界トップ・レベルと評されることも多いN響だが、一般の認知度がこの程度だとしたら、国際的な存在感を今以上に高めていかねばならないと、痛切に感じた次第である。

批評の多くは、力強さや技術の確かさを褒めていたが、中には「各部分がバラバラの絵のよう」という手厳しい指摘もあった。悔しいが一理ある。これはN響を含めた日本のオーケストラの課題であろう。滞在中に聴いたドレスデン・シュターツカペレが、小節線を意識させずに大きなうねりを生み出していく様子を目の当たりにして、そこには個性の違いと言って片づけられない何かがあると感じたのも、事実である。

とはいえ、ツアーを経験して、N響のアンサンブルは確実に進化した。管と弦の調和、弱音への意識づけなど、帰国後の演奏は明らかに一皮むけた感じがする。更に上を目指すためにも、また再度ネット検索されないためにも、次のツアーを早く実現しなければと決意を新たにしている。

ツアーを終えて

西川彰一
NHK交響楽団 芸術主幹

最終公演地のインスブルックで、ツアー最後の拍手に応える

演奏会評

今回のツアーの模様は現地の新聞やインターネットメディアでも数多く取り上げられ、これまでにまして多くの称賛が寄せられました。ここではその一部をご紹介させていただきます（抄訳）。

アムステルダム公演（5/11）

de Volkskrant
2025年5月12日
Dennis Bajram

舞台には東京から来たNHK交響楽団。彼らはこのマーラー・フェスティバルでは、恐れずに言えば、全くの無名だ。しかし同時に大きな驚きになった。イタリア人ファビオ・ルイージが指揮するオーケストラには、なんという色彩、なんという規律、そしてなんという力強さが、あるのだろう。コントラバスの下で何かが沸き立っている。金管楽器の間で何かが群れている。

nrc
2025年5月12日
Rahul Gandolahage

第3回マーラー・フェスティバルの新しい草案が発表されたとき、ラインナップにNHK交響楽団が入っていたのは、大きな驚きになった。みんながグーグル検索しなくてはならないほどだった。東京から来るらしい……（中略）。バランスは最高だ。まるでひとりで奏でているかのような合奏は、ソリストに適切な空間を与える。オーケストラは穏やかに、また巧みに、そしてしなやかに浮かび上がり、広がっていくのだ。

アムステルダム公演（5/12）

nrc
2025年5月13日
Loni Verweij

チェロとコントラバスが、深く呼吸する静けさの中第3楽章を始めたのも、ヴァイオリンが最高に繊細にそれを引き継いだのも、素晴らしい。第4楽章でイン・ファンが加わった。気ままな天空の生活についての子どもの管弦楽歌曲の彼女のパフォーマンスは、洗練されていて、彼女の声には、音符の持つパラダイスのような静けさと共鳴する、素晴らしく美しい軽やかさがある。

ウィーン公演（5/14）

Kurier
2025年5月15日
Susanne Zobl

マーラーの《交響曲第4番》で（ルイージ）は、オーケストラの温かみのある音色を引き出した。管楽器奏者の演奏は素晴らしかった。最大限の規律をもって曲が演奏され、ルイージはウィーンの雰囲気を感動的に吹き込んだ。コンサートマスターはソロ「死神が演奏する」で悪魔的な響きをはっきりと聴かせた。

Die Presse
2025年5月15日
Marion Eigl

東京からのゲストであるこのオーケストラ（NHK交響楽団）とその首席指揮者ファビオ・ルイージが選んだアプローチは、完璧に磨き上げられ、へこみや傷ひとつ見られなかった。

プラハ公演（5/15）

iDNES
2025年5月16日
Věra Drápelová

ヨハネス・ブラームスの《交響曲第4番》を聴いていると、まるでヨーロッパの名門オーケストラの演奏を聴いているかのような印象を受けた。指揮者と演奏者たちは、その曲の持つ歌謡性と情熱を余すところなく引き出していた。

Opera PLUS
2025年5月16日
Martin Jemelka

このオーケストラは、均衡の取れた音色が特徴で、楽譜の前には技術的にも、また表現力も豊かな奏者たちが座っており、彼らにとっては、ヨーロッパの音楽的感性がまるで当たり前のことのように感じられるのである。

ドレスデン公演（5/17）

Dresdner Neueste Nachrichten
2025年5月19日
Wolfram Quellmalz

諏訪内はファビオ・ルイージが束ねる全体を通して、室内楽的で直接的という意味で、オーケストラとの見事な対話を披露した（中略）。重厚にならず、威圧的でもなく、ヴァイオリンを密に取り囲んでいるような演奏に驚いた。時にソリストとオーケストラはふわりと軽く、そのサウンドは一陣の風が吹けば飛び散ってしまうかのようだった。

ドレスデン公演（5/18）

Sächsische Zeitung
2025年5月19日
Jens-Uwe Sommerschuh

ルイージはオーケストラを上品に抑制し、フォーグラーの果敢な演奏のために、引き締まった細くヴィブラートを控えたバックグラウンドを提供した（中略）。ルイージは、細部への優れた感性を活かして、（マーラー《交響曲第4番》を）繊細に構成し、要点を押さえながら演奏を始めた。第2楽章ではマーラーの皮肉をたっぷりと効かせ、有名なアダージョは、ホルンとオーボエのソロを十分に聴かせて、優しくつややかであった。

インスブルック公演（5/20）

Tiroler Tageszeitung
2025年5月22日
Von Julia Brader

無調の響きである十二音技法は、誰もが好むわけではない。しかし、ソリスト諏訪内晶子とNHK交響楽団の共演は、その魅力を味わわせてくれた（中略）。休憩後、ヨハネス・ブラームスの最後の交響曲《第4番》の演奏が始まった。この日の音が鳴り響くさまは、演奏する喜びの炸裂（さくれつ）となっていった。炸裂させたのは指揮者ファビオ・ルイージ（中略）。第3楽章と第4楽章は、息つく間もなく興奮の中ひとつに溶け合っていった。驚くべきことにオーケストラは、正確さを微塵も失わずに演奏し、会場を熱狂の渦に巻き込んだ。

演奏会評はN響ホームページでもご覧いただけます
https://www.nhkso.or.jp/news/20250514.html

Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

特別支援	With Special Support of
岩谷産業株式会社	Iwatani Corporation
三菱地所株式会社	Mitsubishi Estate Co., Ltd.
MIZUHO みずほ銀行	Mizuho Bank, Ltd.
公益財団法人 渋谷育英会	Shibuya Scholarship Foundation
東日本旅客鉄道株式会社	East Japan Railway Company
NTT EAST	NTT East, Inc.
東京海上ホールディングス株式会社	Tokio Marine Holdings, Inc.
株式会社ポケモン	The Pokémon Company

ＮＨＫ交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2025年5月、マーラー・フェスティバル(アムステルダム・コンセルトヘボウ)にて ©Milagro Elstak

50 YEARS
7 GENERATIONS
BMW 3 SERIES

走り方は、生き方だ。

THE 3

50th Anniversary
Limited

駆けぬける歓び

Photo：BMW M340i xDrive 50th Anniversary Limited ※写真の車は一部日本仕様とは異なります。※使用している写真は印刷物のため、実際の色合いと異なる場合があります。

※表示の価格はメーカー希望小売価格（消費税込）で参考価格です。販売価格はBMW正規ディーラーが独自に定めておりますので、お問い合わせください。※価格および装備の設定等は、在庫車両の生産時期等により異なる場合があります。また、価格帯には受注生産モデルも含みます。詳しくはBMW正規ディーラーまでお問い合わせください。※価格（リース料を除く）には、税金（消費税を除く）、保険料、登録に伴う諸費用、付属品価格等は含まれません。※リース契約の場合を除き、リサイクル料金が別途必要となります。※価格は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。※プロダクトに関する詳細はwww.bmw.co.jp、またはBMW正規ディーラーにてご確認ください。※以上の内容は、予告なく変更、終了する場合がございます。※世界規模の半導体部品供給難等により、一部の標準装備やオプションの設定削除、およびパッケージ・オプションに含まれる装備の変更が発生する場合がございます。最新の装備／設定や価格の詳細につきましては、BMW正規ディーラーまでお問い合わせください。※記載の内容は2025年8月5日現在のものです。

LINEUP	3 Series 50th Anniversary Limited	6,980,000円	3 Series Touring 50th Anniversary Limited	7,280,000円
	320d xDrive M Sport 50th Anniversary Limited	8,360,000円	320d xDrive Touring M Sport 50th Anniversary Limited	8,660,000円
	M340i xDrive 50th Anniversary Limited	10,960,000円	M340i xDrive Touring 50th Anniversary Limited	11,240,000円

※上記の車両価格はオプション装備を設定していない場合のメーカー希望小売価格（消費税込）です。

FOR MORE INFORMATION

ANA Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER ™

www.ana.co.jp

YAMAHA
Make Waves

私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」
ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、
すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。
ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、
演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、
コンサートホールの空間を満たしていく。
これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。
人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、
ピアニストとともに作りあげていくものだから。

CFX
Yamaha Concert Grand Piano

旬のピアニスト情報が満載
Pianist Lounge.
ヤマハピアニストラウンジ 検索
https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/

ヤマハ株式会社

この活動を広めるために作成した
ロゴマークです

文化芸術・集客エンタメをSDGsの18番目の目標に

SDGsの17項目には、文化や芸術、エンタテインメントに関する目標が語られていません。ぴあでは、世界の多様な文化の共存・共生こそが、サステナビリティの根源にあるはずだと考え、その18番目の目標として、文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の文化的活動を支援することを提言します。これらは、私たちにとって“なくてはならないもの”であり、同時に、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、差別のない社会を作り、世界平和に向けた共感への近道になると考えています。この活動への、皆様からご支援をお願いいたします。

ひとりひとりが生き生きと※

ぴあ

※1998年に発表した、
当社の企業理念です

PROGRAM

A

第2042回

NHKホール

9/13 土 6:00pm

9/14 日 2:00pm

指揮	ファビオ・ルイージ
ピアノ	イェフィム・ブロンフマン
コンサートマスター	郷古 廉

ベートーヴェン
ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」［38′］

Ⅰ アレグロ
Ⅱ アダージョ・ウン・ポーコ・モート
Ⅲ ロンド：アレグロ、マ・ノン・トロッポ

――休憩（20分）――

フランツ・シュミット
交響曲 第4番 ハ長調［42′］

Ⅰ アレグロ・モルト・モデラート
Ⅱ アダージョ
Ⅲ モルト・ヴィヴァーチェ
Ⅳ アレグロ・モルト・モデラート

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは57ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

Artist Profiles

ファビオ・ルイージ（指揮）

©NHKSO

イタリア・ジェノヴァ出身。2001年にN響と初めて共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、2023年12月のN響第2000回定期公演でマーラー《一千人の交響曲》を指揮した。2024年には台湾公演を率い、翌2025年5月にはアムステルダム・コンセルトヘボウでの「マーラー・フェスティバル」、「プラハの春音楽祭」、「ドレスデン音楽祭」への参加を含むヨーロッパ公演を成功に導いた。なおN響は「マーラー・フェスティバル」に参加したアジア最初のオーケストラとなり、《交響曲第3番》《同第4番》の演奏は評論家から称賛を集めた。

現在、デンマーク国立交響楽団首席指揮者およびダラス交響楽団音楽監督。またチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR（中部ドイツ放送）交響楽団プリンシパル・コンダクターおよびチーフ・コンダクター、スイス・ロマンド管弦楽団芸術監督、ウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団首席指揮者、グラーツ交響楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのプーリア州マルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督、トリノを本拠とするRAI国立交響楽団の名誉指揮者も務めている。また、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラなど最高峰のオーケストラ、歌劇場、音楽祭に定期的に客演している。

録音ではデンマーク国立交響楽団との『ニルセン交響曲全集』が2023年にオーストラリアのライムライト賞とイタリアのアッビアーティ賞を受賞し、その第1集は『グラモフォン』誌の年間最優秀録音賞に選ばれた。またメトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のDVDはグラミー賞を受賞した。NHK交響楽団との初CD『ブルックナー／交響曲第8番（初稿）』は、2025年5月にリリースされた。

彼は優れた作曲家、調香師でもある。

イェフィム・ブロンフマン（ピアノ）

©Dario Acosta

イェフィム・ブロンフマンが、じつに24年ぶりにN響定期公演に登場する。2001年にデュトワの指揮でプロコフィエフの《第1番》を共演して以来のことだ。ロシア音楽で聴かせる迫真の剛腕にかぎらず、古典派やロマン派の作品でもすぐれた構成と綿密な表現を聴かせる名手の成熟は頼もしく、現代きっての大家と称えるべき存在感をもつ。

直近の来日では、2023年秋にほかならぬルイージの指揮でリストの《協奏曲第2番》、2024年秋にはネルソンス指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とベートーヴェンの《第3番》で、余裕と風格をもって両曲の内実を実直に体現した。今回はルイージの指揮でベートーヴェンの大作《第5番》が組まれている。重量級の響きと逞（たくま）しい構築性はもちろん、冴（さ）え冴えとした弱音での表現も含めて、作品の美観を顕（あきら）かにする名演が期待される。

1958年、ソヴィエト連邦下のタシケントの生まれ。15歳で家族と共にイスラエルに移住、アリエ・ヴァルディに師事したあと、アメリカに渡り、フィルクシュニー、フライシャー、ルドルフ・ゼルキンに師事。世界の名だたる指揮者や主要オーケストラと充実の共演を重ねている。

［青澤隆明／音楽評論家］

Program Notes｜中村伸子

フランツ・シュミットはベートーヴェンの曾孫弟子にあたる。シュミットがピアノを師事したテオドル・レシェティツキは、カール・チェルニーの弟子であり、チェルニーはベートーヴェンの弟子のひとりであった。シュミットはまた、ウィーンの音楽アカデミー（現ウィーン国立音楽大学）の教授あるいは学長として、後身の育成に邁進した。今日まで受け継がれるウィーン古典派の伝統とその系譜を語るうえで欠かすことのできない2人のプログラムである。

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン（1770〜1827）の《ピアノ協奏曲第5番》は、ベートーヴェンの弟子で保護者（パトロン）のルドルフ大公のために書かれた。神聖ローマ皇帝レオポルト2世の末息子で、のちにオロモウツ大司教および枢機卿となるルドルフ大公は、ベートーヴェンのもとでピアノと作曲を学び、1809年からは師がウィーンで活動し続けられるよう資金を送った。感謝のしるしとして、ベートーヴェンは《ピアノ三重奏曲「大公」》や《ミサ・ソレムニス》をはじめとする多くの作品をルドルフ大公に献呈している。

「皇帝」という通称は、1804年にフランス皇帝に即位したナポレオンへの称賛を思わせるが、これは出版者でピアニストのヨハン・バプティスト・クラーマーが広めたとされるもので、ベートーヴェン自身によるものではない。むしろ《ピアノ協奏曲第5番》が作曲された当時、ベートーヴェンはナポレオンに批判的になっていたのみならず、彼はナポレオン軍がウィーンに侵攻する最中に筆を進めていた。

《ピアノ協奏曲第5番》は、ルドルフ大公の作曲レッスンの教材でもあったことが、自筆譜への通奏低音の書き込みなどからわかっている。1811年1月にウィーンのロプコヴィツ宮殿で行われた私的演奏会で、22歳の大公の独奏により初演された。同年11月にライプツィヒ・ゲヴァントハウスで公開初演されたのち、翌1812年2月にはウィーンのケルントナートーア劇場にて、チェルニーの独奏で演奏される。ライプツィヒでは「現存する協奏曲のなかで最も独創的で、最も想像力に富み、最も効果的でありながら、最も難しい曲のひとつ」と比較的肯定的に評されたいっぽう、ウィーンでは「非常に重々しく、人工的で、

まったく心地よくない」（1811年）、「長すぎる」（1812年）など、時代を先取りした大作は好意的には受け入れられなかったようだ。

荘厳なピアノ独奏とオーケストラの対峙で始まる**第1楽章**は、従来の協奏曲の形式を踏襲しつつ、自由に拡大されている。清らかな旋律美をたたえた3部形式の緩徐楽章（**第2楽章**）から切れ目なく奏される**第3楽章**は、ロンド・ソナタ形式をとり、快活に締めくくられる。

作曲年代	1809年
初演	［非公開初演］1811年1月13日、ウィーン（ロブコヴィッツ侯爵主催の私的演奏会）にて、ルドルフ大公独奏　［公開初演］1811年11月28日、ライプツィヒにて、フリードリヒ・シュナイダー独奏、フィリップ・クリスティアン・シュルツ指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽、ピアノ・ソロ

フランツ・シュミット

交響曲 第4番 ハ長調

ベートーヴェンをはじめとする多くの作曲家がそうであるように、フランツ・シュミット（1874～1939）もピアノの名手であった。シュミットの弟子の回想によれば、ウィーン楽友協会で行われたあるオーケストラの演奏会で、ベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第5番》のソリストが急に出演できなくなった際、シュミットが稽古なしで代役を務めたという。楽友協会のオンライン・アーカイブにその情報はないものの、シュミットがたびたびベートーヴェンの《合唱幻想曲》のピアノ独奏を弾いたことは同アーカイブに記録されている。

ピアノだけでなく作曲とチェロの専門教育も受けたシュミットは、ウィーン音楽院を首席で卒業すると同時にウィーン宮廷歌劇場（現ウィーン国立歌劇場）管弦楽団およびウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のチェロ奏者に採用される。ハンス・リヒターやグスタフ・マーラーといった巨匠たちの指揮のもと、1896年から1914年まで（ウィーン・フィルでは1911年まで）数々のオーケストラ作品やオペラの演奏・上演に携わった。のちに、ピアノ作品をあまり書かない理由を尋ねられた際、「心のなかでは大編成の交響音楽しか聞こえないから」と答えたと伝えられるように、オーケストラ団員としての経験がオーケストラ作曲家としてのシュミットの土台を形作ったことは想像に難くない。ウィーン・フィル在団中の1899年に完成した《交響曲第1番》は、ウィーン楽友協会主催のベートーヴェン賞を受賞している。

シュミットはその後、約15年おきに交響曲を《第3番》まで世に送った。《第3番》まではブラームスの系譜に倣ったいわゆる「絶対音楽」であったが、その5年後に完成された《第4番》は打って変わって標題的、そして個人的な音楽である。というのも、この作品は1932年春に急死した一人娘エマのためのレクイエムとして書かれたからである。

《交響曲第4番》では4つのセクション（部）が切れ目なく奏され、作品全体が第2部の中間部の葬送行進曲を中心に置いたシンメトリー構造になっている。冒頭のトランペット独奏（**第1部** 第1主題）は特定の調性を持たずさまよい、その空虚な4度音程は孤独や痛みを連想させる。ハープに彩られたヴァイオリンによる第2主題が続き、2つの主題が展開していく。アダージョ（**第2部**）の慈愛に満ちた主題はチェロで奏され、中間部の葬送行進曲へと続く。なお、葬送行進曲を交響曲に取り入れた初期の例に、ベートーヴェンの《交響曲第3番「英雄」》があることを付記しておきたい。スケルツォ（**第3部**）では、アダージョの主題を変容した旋律と第1部の2つの主題が姿を変えて折り重なり、緊張感を増していく。銅鑼（どら）の一撃で崩れ落ちると、冒頭のトランペットの主題が今度はホルンのアンサンブルで奏される（**第4部**）。2つの主題が繰り返されたのち、トランペットの独奏で静かに幕を閉じる。

一度聴いたら頭から離れないこのトランペット独奏の旋律について、シュミットは「いわば、その音楽の庇護のもとに生まれ、人生を過ごしたのちに、あの世へ持っていく最後の音楽」といいあらわしたという。作曲前から心臓病を患っていたシュミットにとって、《第4番》は最後の交響曲となった。

作曲年代	1932〜1933年
初演	1934年1月10日、ウィーンにて、オスヴァルト・カバスタ指揮、ウィーン交響楽団による
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、銅鑼、ハープ2、弦楽

ウィーンで活躍した才人

フランツ・シュミット

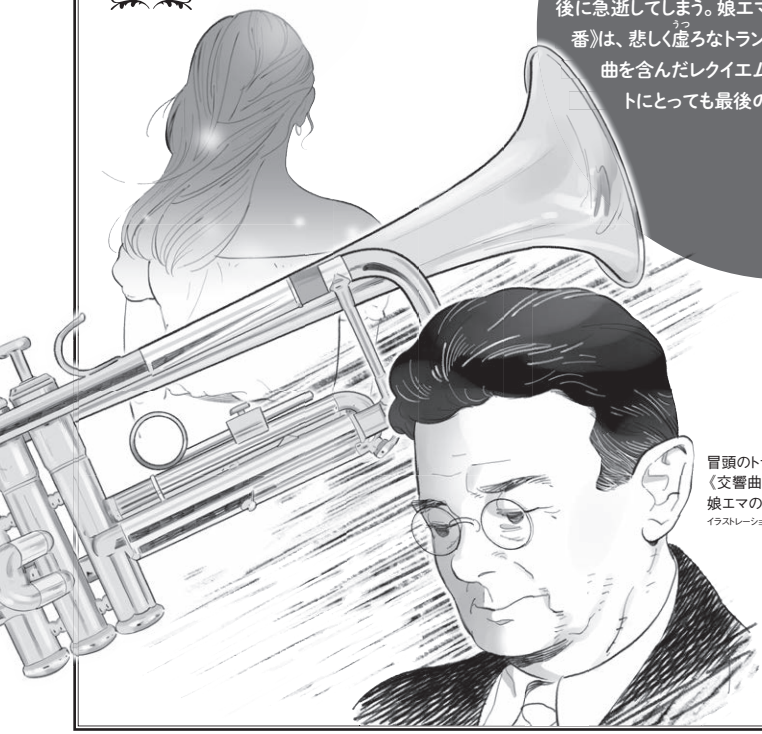
Franz Schmidt (1874–1939)

幼少の頃にピアノの神童として名を馳せたのち、チェロを学び、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団などでチェロ奏者としても活躍したフランツ・シュミット。その音楽的才能は作曲家、指揮者としても発揮され、教育者として後進の指導にも邁進した。演奏者としてマーラーの指揮ぶりも間近に体験したフランツ・シュミットが残した交響曲からは、当時のオーストリアの空気を伝えるような、豊穣で後期ロマン派的な音響が聞こえる。

A
2025
SEPTEMBER
［第2042回］

娘へのレクイエム

才能と名誉とを手にし、順風満帆にみえるフランツ・シュミットだったが、愛娘のエマが結婚して第一子を出産後に急逝してしまう。娘エマを悼んで書かれた《交響曲第4番》は、悲しく虚ろなトランペット独奏ではじまり、葬送行進曲を含んだレクイエムとなっている。フランツ・シュミットにとっても最後の交響曲となった。



冒頭のトランペットが印象的な《交響曲第4番》は娘エマの急死を悼んで書かれた
イラストレーション：©IKE

PROGRAM

B

第2043回

サントリーホール

9/18 木 7:00pm

9/19 金 7:00pm

指揮	ファビオ・ルイージ　プロフィールはp. 20
ヴァイオリン	マリア・ドゥエニャス
コンサートマスター	郷古 廉

武満 徹
3つの映画音楽［12′］

Ⅰ　訓練と休息の音楽―『ホゼー・トレス』より
Ⅱ　葬送の音楽―『黒い雨』より
Ⅲ　ワルツ―『他人の顔』より

ベートーヴェン
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61
［50′］

Ⅰ　アレグロ・マ・ノン・トロッポ
Ⅱ　ラルゲット
Ⅲ　ロンド：アレグロ

――休憩（20分）――

メンデルスゾーン
交響曲 第4番 イ長調 作品90
「イタリア」［27′］

Ⅰ　アレグロ・ヴィヴァーチェ
Ⅱ　アンダンテ・コン・モート
Ⅲ　コン・モート・モデラート
Ⅳ　サルタレロ：プレスト

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは57ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

Artist Profile

マリア・ドゥエニャス（ヴァイオリン）

©Felix Broede

2021年のユーディ・メニューイン国際コンクールで優勝し、聴衆賞も獲得したドゥエニャスは、その技術力だけでなく芸術的な成熟度も高い注目を集めているスペインのヴァイオリニストだ。2002年グラナダ生まれの彼女は6歳でヴァイオリンを始め、奨学金を得て2014年にドレスデンに留学。さらに2016年からはウィーン市立音楽芸術大学、およびグラーツ国立音楽大学でボリス・クシュニールに師事した。

これまでロサンゼルス・フィルハーモニック、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団など欧米の主要なオーケストラに客演、マンフレート・ホーネック、ヤニック・ネゼ・セガン、パーヴォ・ヤルヴィ、ヘルベルト・ブロムシュテットなどの世界的指揮者と共演を重ねている。

ドイツの老舗レーベルの専属アーティストとしてすでにベートーヴェン《ヴァイオリン協奏曲》をリリースしたが、作曲家でもある彼女はここで自作のカデンツァを披露した。ほかにパガニーニ《奇想曲》など続々と録音を発表。現在はドイツ音楽財団貸与の1774年製ニコロ・ガリアーノおよび日本音楽財団貸与の1710年製ストラディヴァリウス「カンポセリーチェ」を使用している。N響とは今回が初共演。

［片桐卓也／音楽評論家］

Program Notes｜西田紘子

武満徹《3つの映画音楽》は、N響が今年5月のヨーロッパ公演で演奏した楽曲。国内のシーズンはじめにツアーの成果とともに新たなスタートを切ろうというルイージの意欲を感じさせる。そして、いまは名作とされるベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》であるが、その魅力を人々に気づかせるきっかけとなったのはメンデルスゾーン指揮の演奏会であった。そのメンデルスゾーンが異国イタリアでチャレンジした《交響曲第4番》を、ルイージ×N響はどう届けてくれるのだろうか。

武満 徹

3つの映画音楽

武満徹（1930～1996）は、1950年代から最晩年の1990年代まで、生涯にわたって映画音楽を手がけた。戦後の現代音楽作曲家は映画音楽というジャンルにかかわることが少なくなかったとはいえ、武満の功績は本数や国際的知名度の点で群を抜いている。本人も大の映画マニアとして知られており、「映画は音楽である」という趣旨の発言も残し

ている。

本作は、晩年に、これまで作曲した複数の映画音楽から一部を抜粋してまとめた組曲である。具体的には、ボクサーのドキュメンタリーである勅使河原宏監督『ホゼー・トレス』(1959)より〈訓練と休息の音楽〉、広島への原爆投下から生き残った人々を描いた今村昌平監督『黒い雨』(1989)より〈葬送の音楽〉、やけどを負った男が他人の顔を手に入れる勅使河原宏監督『他人の顔』(1966)より〈ワルツ〉の3曲からなる。すべて弦楽オーケストラ編成である。これら3つの映画はとくに関連性はなく、作曲家自身にとって意義深い楽曲を、「演奏会用」という新たな文脈で再構成したものと考えられる。スイスの音楽祭のために編まれた。

〈訓練と休息の音楽〉にはジャズ的要素があり(作曲当初はジャズバンド編成だったという)、**〈葬送の音楽〉**はより浮遊的であるがゆえに緊迫感を持続させる。**〈ワルツ〉**は短い中間部をもつ3部形式のなじみやすい書法。3曲を通して武満の音楽様式の変遷を垣間見るようである。

作曲年代	1994〜1995年(編曲)
初演	1995年3月9日、スイスのグシュタード、ウィリアム・ボートンの指揮
楽器編成	弦楽

ベートーヴェン

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770〜1827)が残したこの名作がどのように成立したのかについては、謎に包まれた部分が多い。1806〜1807年のスケッチ帳でその構想があたためられたと推測されるが、《ピアノ協奏曲第4番》や《交響曲第4番》など中期傑作の母体ともなったこのスケッチ帳は、残念ながら失われている。確実なのは、この協奏曲が当時の売れっ子ヴァイオリン奏者フランツ・クレメントに触発されて生まれたこと。なぜなら、自筆譜に「お情けでクレメントに(par Clemenza pour Clement)」というダジャレが書きこまれているからである。

ベートーヴェンは、未完の《ヴァイオリン協奏曲》(WoO5)や《ロマンス》(作品40、50)をとおして、以前からヴァイオリンを主役とした作品に挑戦していた。とはいえ、5作あるピアノ協奏曲とは対照的に、ヴァイオリン協奏曲は1作しか完成させていない。

カール・チェルニーによれば、1806年暮れの演奏会に間に合うようにと11月下旬ころから大慌てで書き進められ、初演直前になんとか仕上げられた。音楽の流れが理解しづらかったためか、初演の評判は芳しくなかった。ウィーンの批評(1807年1月)では、パッセージは独創的で多彩で喝采を呼んだ反面、曲の筋道がズタズタになることもあっ

たと綴(つづ)られている。

そのせいか、初演後にベートーヴェンは独奏パートを改良し、1808年に出版されたパート譜は初演時とは異なる改訂版となった。今日よく知られているのは改訂版のほうだ。作品の評価が上がるきっかけとなったのは、初演からおよそ40年後の1844年。メンデルスゾーン指揮、ヨーゼフ・ヨアヒム独奏による演奏会である。

第1楽章(アレグロ・マ・ノン・トロッポ、ニ長調、4/4拍子)はティンパニの連打で始まる。随所に現れるこの音型が、作品全体をまとめてくれる。**第2楽章**(ラルゲット、ト長調、4/4拍子)では弦楽器が主題を提示したあと、独奏ヴァイオリンが優美な旋律を装飾変奏してゆく。**第3楽章**(ロンド:アレグロ、ニ長調、6/8拍子)では、オクターヴ上行をはじめ第1楽章とモティーフを共有するロンド主題の合間に、対照的な性格の旋律が次々と挟まれる。

作曲年代	1806年秋
初演	1806年12月23日、アン・デア・ウィーン劇場にて、フランツ・クレメントの独奏
楽器編成	フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

メンデルスゾーン

交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

1830年10月から1831年7月まで、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809〜1847)は、3年におよぶ大旅行の一環で南国イタリアに滞在した。ゲーテをはじめ多くのドイツ人がイタリアの風土や文化に刺激を受けてきたが、この作曲家も例外ではない。滞在中に家族に宛てた手紙は、開放的な気分にあふれている。

それらの手紙のなかで本作は「イタリア交響曲」と呼ばれている。その構想は、早くも1830年11月の手紙にみつかる。翌年1831年2月の手紙では「作曲がまた軌道に乗りはじめて、イタリア交響曲はかなり進歩したよ。これまででいちばん陽気な楽曲になると思う、とくに終楽章は。アダージョ楽章はまだなにも定まっていないけど、ナポリで書くつもり」と、意気揚々とした様子。

とはいえ、本作が仕上げられたのは、1832年11月にロンドンのフィルハーモニック協会から交響曲を委嘱されてからである。当時、ベルリンで心身不調に陥っていた作曲家は、ロンドンに旅立てることを喜び、「数日後に作曲を再開し、近いうちに完成させます」と依頼を快諾した。

1833年5月に行われたロンドンでの初演は、すでに作曲者の名が知られていたこともあって、あたたかく受けいれられた。初演の批評では、第1楽章がゆったりした序奏なしにすぐに躍動して始まったことや、終楽章が(長調ではなく)短調で始まる独特なもので

あったことなどが報告されている。第2楽章はアンコールを求められた。

翌年6月、友人イグナーツ・モシェレスの指揮により再びロンドンで演奏されたが、フィルハーモニック協会との権利関係などもあって、ドイツではすぐに演奏機会に恵まれなかった。そのあいだに作曲家は、周囲と相談しながら第2楽章から第4楽章までの改訂を試みている。ドイツで初めて演奏されたのはようやく1849年のこと。

上述のプライベートな手紙とは異なり、作曲家が公の場で本作に「イタリア」という語を用いることはなかった。この交響曲を特定の具体的な土地と関連づけて解釈されることを避けたかったのかもしれない。

第1楽章（アレグロ・ヴィヴァーチェ、イ長調、6/8拍子）はシンプルなようでいて細部に意外性もある。冒頭の和声変化に驚いた知人もいたようだ。**第2楽章**（アンダンテ・コン・モート、ニ短調、4/4拍子）は対位法的に編みこまれて古風さを漂わせる。**第3楽章**（コン・モート・モデラート、イ長調、3/4拍子）では、メヌエット部とトリオ部が弦楽器と管楽器で効果的に対比される。**第4楽章**（プレスト、イ短調、4/4拍子）にはイタリアの民俗舞踊「サルタレロ」の語が付されている。こうして第3楽章と第4楽章は、同じ「舞踊」でありながらその違いが強調される。

作曲年代	1830年末〜1831年4月、1832年11月〜1833年3月、1834年6月に改訂
初演	1833年5月13日、ロンドンのフィルハーモニック協会、作曲者自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽

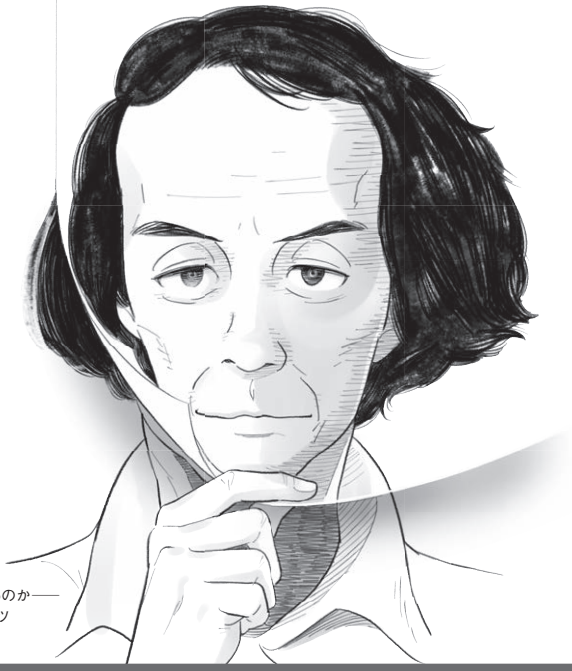
戦後日本を代表する作曲家・武満徹は、ドビュッシーやメシアンの影響を受けた前衛音楽を作曲しながら、映画やテレビ、舞台のための実用音楽も多く作った。1959年、来日中のストラヴィンスキーに絶賛され、1967年に琵琶（びわ）、尺八とオーケストラのための《ノヴェンバー・ステップス》で世界的な名声を得ると、作品演奏の機会は世界へと広がる。明るく、洗練された透明感をもつ響きは、本日の作品にもあらわれている。

B
2025
SEPTEMBER
［第2043回］

密やかで透明感ある響き

武満 徹

Toru Takemitsu (1930–1996)



映画『他人の顔』よろしく
顔をめくると何があらわれるのか――
妖しさ全開、世界のタケミツ
イラストレーション：©IKE

映画好きの武満

武満は多くの映画音楽を手がけた。実験的手法を試みることも多く、武満が意欲的に取り組んでいたことが伺われる。《3つの映画音楽》に収録された作品のうち、映画『黒い雨』と『他人の顔』では、それぞれ映画の音楽賞も受賞した。『他人の顔』は、主人公が仮面をかぶって他人になりすますというあらすじで、一場面に武満も出演している。

PROGRAM

C

第2044回

NHKホール

9/26 金 7:00pm

9/27 土 2:00pm

指揮	ライアン・バンクロフト
バリトン	トマス・ハンプソン★
コンサートマスター	川崎洋介

マーラー
こどもの不思議な角笛
―「ラインの伝説」★[3′]
「トランペットが美しく鳴り響くところ」★[7′]**「浮世の生活」★**[3′]
「天上の生活」★[9′]**「原光」★**[5′]

――休憩（20分）――

シベリウス
交響詩「4つの伝説」作品22[51′]
Ⅰ　レンミンカイネンと乙女たち
Ⅱ　トゥオネラの白鳥
Ⅲ　トゥオネラのレンミンカイネン
Ⅳ　レンミンカイネンの帰郷

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは57ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

ライアン・バンクロフト（指揮）

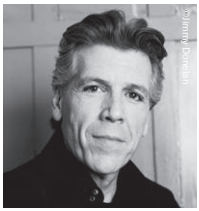
1989年アメリカ・ロサンゼルス生まれ。カリフォルニア芸術大学でトランペットを学んだあと、スコットランド王立音楽院で指揮を学ぶ。2018年、コペンハーゲンで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。2020/2021シーズンから英国カーディフを拠点とするBBCウェールズ・ナショナル管弦楽団の首席指揮者、2023/2024シーズンからスウェーデンのロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者を務めている。

これまでに、フィルハーモニア管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする英国各地の楽団や、ベルリン・ドイツ交響楽団、ケルンWDR交響楽団などの欧州著名楽団に客演。近年は、ロサンゼルス・フィルハーモニック、ボストン交響楽団、クリーヴランド管弦楽団、サンフランシスコ交響楽団など、母国の一流楽団からも招かれている。日本では、2022年にサントリーホールで行われた「五嶋みどり デビュー40周年記念」公演の「協奏曲の夕べ」で、新日本フィルハーモニー交響楽団を指揮している。

N響とは今回が初の共演。マーラーの歌曲とシベリウスの交響詩で、持ち前の生気と活力漲（みなぎ）る音楽を披露する。なかでも、キャリア的に関係の深い北欧の作曲家で、同様にゆかりのある英国の楽団も得意とするシベリウス作品の表現に大きな期待が集まる。

［柴田克彦／音楽評論家］

トマス・ハンプソン（バリトン）



当代を代表するバリトン歌手のひとり。半世紀近くにわたってオペラ、コンサート（リート）の双方で第一線で活躍、演じたオペラの役柄は80以上におよぶ。豊かな声量とノーブルで温かみのある美声、明瞭な発語を誇り、オペラにおいては役柄を深く掘り下げ、リートにあってはテクストの内容や背景を感じさせつつ伝える卓越した芸術家である。狂気と知性が同居した《ドン・ジョヴァンニ》のタイトルロールは一世を風靡（ふうび）した。近年は後進の指導や文化活動にも情熱を注ぐ。

1955年、アメリカ、インディアナ州エルクハート生まれ。イースタン・ワシントン大学で政治科学を専攻するかたわらフォートライト大学で声楽を学び、1979年にロッテ・レーマン賞を受賞。1980年にはサンフランシスコ歌劇場のオーディションに合格して同歌劇場のメローナ・オペラプログラムに参加、名ソプラノのエリーザベト・シュヴァルツコップフの薫陶を受ける。1984年よりチューリヒ歌劇場の専属歌手となり、1987年、同歌劇場の《ドン・ジョヴァンニ》のタイトルロールで注目を集めた。前年には《フィガロの結婚》の伯爵役でメトロポリタン歌劇場にもデビューしている。オペラと並行してコンサート活動も精力的にこなし、マーラーの歌曲でも高い評価を受ける。《こどもの不思議な角笛》はハンプソンがキャリアの初期から歌い続けている十八番。

NHK交響楽団への登場はなんと四半世紀ぶり（1999年以来）である。名歌手の円熟の境地を味わいたい。

［加藤浩子／音楽評論家］

Program Notes｜岡田暁生

「マーラーとR. シュトラウス」という組み合わせはよく見られるが、「マーラーとシベリウス」も当然あってしかるべきだ。偉大な交響曲伝統のフィナーレを飾るこの二大巨人は、各々『こどもの不思議な角笛』と『カレワラ』という民族詩（集）から交響曲へ向かった点も共通していた。彼らはヘルシンキで一度だけ会っている。ただし厳格と論理が交響曲の生命だというシベリウスに対し、マーラーは「交響曲は宇宙」だと主張して会話は平行線だったという。

マーラー

こどもの不思議な角笛―「ラインの伝説」「トランペットが美しく鳴り響くところ」「浮世の生活」「天上の生活」「原光」

1887年ごろから『こどもの不思議な角笛』所収の詩による歌曲を作曲し始めたグスタフ・マーラー（1860～1911）は、《交響曲第4番》（1900年に完成）あたりまで、この詩集に取り憑（つ）かれていた。1892年にピアノ伴奏の9曲、1899年にはオーケストラ伴奏の12曲が出版される。最終的に《交響曲第4番》の終楽章に転用された〈天上の生活〉を除き、本日演奏される作品はこの1899年出版のものである（〈原光〉ものちに《交響曲第2番》の第4楽章に転用された）。

アルニムとブレンターノが民衆の間で伝承されている詩を集めて『こどもの不思議な角笛』を出版したのは1805～1808年。これはグリム兄弟による有名な民話収集に先立つ。編者たちの手がかなり加わっているともいわれるが、ここで描かれるのは恐ろしく生々しい民衆世界だ。胸が痛くなるほど純朴な乙女（〈ラインの伝説〉）。恋人のもとへ夜更（ふ）けにやってくる死んだ兵士の亡霊（〈トランペットが美しく鳴り響くところ〉）。餓死しそうなこどもをかかえた母（〈浮世の生活〉）。そして民間信仰の中の天国では、聖者が家畜を殺したり（〈天上の生活〉）、天使が物乞いを追い払ったりする（〈原光〉）。

19世紀において「コンサートライフ」とは、都会の裕福なブルジョワの嗜（たしな）みであった。対するに『角笛』歌曲でマーラーが描いたのは、コンサートに足を踏み入れられようはずも

なかった下層階級の人々である。彼らがホールの玄関にやってきたとしても、〈原光〉の主人公よろしく守衛に野良犬のように追い払われたであろう。かつてのドイツやオーストリアは、今では東欧と呼ばれる地域へと向けて、国境も定かでないままに茫漠と広がっていた。そしてマーラーが生きた世紀転換期には、ここから無数の移民が仕事を求めてウィーンやベルリンに押し寄せてきた。ユダヤ人の運搬業者の息子としてボヘミアの寒村に生まれたマーラーにとって、こうした名もなき人々はまさに同胞であった。彼自身もウィーンに出てきた東欧移民のひとりといえなくもなかったのだ。

ぼろを着て愚者と蔑まれ、追い立てられ、野垂(のた)れ死にしていく人々。マーラーはそれを美化しない。その意味でマーラーの音楽はロマン派というより、むしろ社会派のリアリズム小説やルポルタージュに近い。あまりに素朴な**〈ラインの伝説〉**のレントラーは、言われたことをなんでも信じてしまう少女の痛々しい無垢(むく)の表現。**〈トランペットが美しく鳴り響くところ〉**で死んだ兵士が吹くラッパは、ボヘミアの片田舎で育ったマーラーの幼少期の日常だっただろう。**〈浮世の生活〉**の哀れなわななきは、空腹で今にも死にそうになっているこどもを本当に目にした経験がなければとても不可能な生々しさだ。こんな人々にとっての**〈天上の生活〉**は、飲めや歌えの野卑なブリューゲル的世界である。しかし**〈原光〉**で天国の門から追われる物乞いの姿は、いつの間にか名もなき聖者に変わっている。マーラーの音楽が最も感動的になるのは、こうした野卑から神聖への変容の瞬間である。

作曲年代	〈ラインの伝説〉:1893年、〈トランペットが美しく鳴り響くところ〉:1898年、〈浮世の生活〉:1892年、〈天上の生活〉:1892年、〈原光〉:1893年
初演	〈ラインの伝説〉〈天上の生活〉:1893年、ハンブルクにてマーラー指揮による。〈原光〉:1895年、ベルリンにてマーラー指揮により、《交響曲第2番「復活」》の第4楽章として。〈トランペットが美しく鳴り響くところ〉〈浮世の生活〉:不詳
楽器編成	フルート3(ピッコロ2、アルト・フルート1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2(バス・クラリネット1)、ファゴット2(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、シンバル、トライアングル、タンブリン、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽、バリトン・ソロ

シベリウス

交響詩「4つの伝説」作品22

フィンランドの民族叙事詩『カレワラ』は、ジャン・シベリウス(1865〜1957)にとって尽きぬ霊感の泉だった。その英雄がレンミンカイネンである。第1曲**〈レンミンカイネンと乙女たち〉**で主人公は、踊る美しい娘たちと戯れる。第2曲**〈トゥオネラの白鳥〉**は黄泉(よみ)の国トゥオネラの黒い川を泳ぐ白鳥。魔女に命じられてそれを殺そうとした主人公は、殺されてしまう。第3曲**〈トゥオネラのレンミンカイネン〉**は黄泉の国にいるレンミンカイネン。

しかし彼の母はばらばらにされた遺体を蘇(よみがえ)らせる。第4曲〈**レンミンカイネンの帰郷**〉は馬を駆り故郷へと急ぐ主人公の姿だ。

《4つの伝説》は4つの交響詩を寄せ集めた組曲などではない。これは欲望と死と生をめぐる壮大な交響的叙事詩であり、しかも全曲が驚くべき構成力で統一されている。第1曲〈レンミンカイネンと乙女たち〉はソナタ形式による冒頭楽章。第2曲〈トゥオネラの白鳥〉は緩徐楽章。第3曲〈トゥオネラのレンミンカイネン〉は無窮動的性格の点でスケルツォ楽章であり、しかも闇から光へ向けた転換点になっているという点でも伝統的な第3楽章の役割を果たす。そして喜ばしい第4曲〈レンミンカイネンの帰郷〉が終楽章だ。いわゆる「シベリウス・サウンド」が完全に確立されていることも注目される。あちこちで後年の作品と見紛(みまご)うパッセージが聴きとれる。踊る乙女たちをあらわす第1曲の木管は《交響曲第5番》のフィナーレの白鳥の乱舞を、彼女たちをたぎる眼差しで見つめる主人公の低弦メロディの数々は、《交響曲第2番》の第1楽章を連想させるだろう。第3曲のトレモロによる開始とフィナーレへの高揚は《交響曲第2番》の第3楽章の原型とも聴こえる。

シベリウスには機能和声と明らかに違う独特の調性感があって、それは北欧民謡と深く結びついていたと想像されるのだが、しかし民族的なものをあまりに全面に出すと、いわゆる国際的な成功が難しくなってしまう。民族色をほどよく万国共通のアカデミック様式に合わせなければいけない。小国作曲家のつらいところだ。《フィンランディア》や《交響曲第2番》のシベリウスは、自分本来の音感をカッコに入れ、ヨーロッパ標準音楽言語で話そうとしたともいえる。民族的なものを機能和声に合わせようとしたのだ。だがもっと以前の初期作品である《4つの伝説》では、民族言語の荒々しさがよりストレートに出ている。〈トゥオネラの白鳥〉の宙を漂うような旋律とラディカルとすらいえる和声は好例である。

《4つの伝説》はシベリウスの実人生の危機の中から生まれた。彼はオペラを計画していたのだがうまくいかず、1894年にアルコール依存症になる。この年にバイロイトに行って圧倒され、自分に楽劇は書けないとオペラを断念。このような背景のなか、1893〜1896年に構想されたのが《4つの伝説》である。ここでシベリウスは、オペラでも単なる交響詩でもなく、ドラマを内包しつつドラマを超越する峻厳な絶対音楽の探求へ向かうきっかけをつかんだ。交響曲に自分の天命を見出したのだ。その意味で《4つの伝説》はシベリウスの「交響曲第0番」というべき記念碑的作品である。

作曲年代	1896年。1897年、1900年、1939年に改訂
初演	1896年、ヘルシンキでシベリウス指揮による
楽器編成	フルート2（ピッコロ2）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2（バス・クラリネット1）、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽

マーラー
こどもの不思議な角笛　歌詞対訳

G. Mahler: Des Knaben Wunderhorn

詞（原詩）◎民謡（アヒム・フォン・アルニム／クレメンス・ブレンターノ編）
Text: Folk song (Ed. by Achim von Arnim / Clemens Brentano)
訳◎岡田暁生｜ Translation: Akeo Okada

Rheinlegendchen

Bald gras' ich am Neckar,
bald gras' ich am Rhein;
bald hab' ich ein Schätzel,
bald bin ich allein!

Was hilft mir das Grasen,
wenn d'Sichel nicht schneid't!
Was hilft mir ein Schätzel,
wenn's bei mir nicht bleibt!

So soll ich denn grasen
am Neckar, am Rhein,
so werf' ich mein goldenes
Ringlein hinein.

Es fließet im Neckar
und fließet im Rhein,
soll schwimmen hinunter
in's Meer tief hinein.

Und schwimmt es, das Ringlein,
so frißt es ein Fisch!
Das Fischlein soll kommen
auf's König's sein Tisch!

Der König tät fragen,
wem's Ringlein sollt' sein?
Da tät mein Schatz sagen:
„Das Ringlein g'hört mein!"

ラインの伝説

あるときはネッカー川
あるときはライン川のほとりで草刈りをしましょう
あるときは愛しい人がそばにいる
あるときはひとりぼっち！

草刈りが何の役に立つの、
鎌が全然切れないのに！
愛しい人が何の役に立つの、
私のそばにいないのに！

ネッカーでもラインでも
草刈りをしなきゃいけないなら
いっそ私の金の指輪を
川に投げ入れましょう

指輪はネッカーを流れ
そしてラインを流れて
沈んでいくに違いないわ
海底深くまで

そして指輪は泳いで行って
それを魚が食べる！
きっとその魚は
王様の食卓にのぼるんだわ！

王様はお尋ねになる
「この指輪は誰のものじゃ？」と
すると私の恋人が答える、
「この指輪は俺の彼女のものです！」と

Mein Schätzlein tät springen
Berg auf und Berg ein,
tät mir wied'rum bringen
das Goldringlein mein!

Kannst grasen am Neckar,
kannst grasen am Rhein!
Wirf du mir nur immer
dein Ringlein hinein!

私の恋人は飛ぶようにやってくる
野を越え山を越えて
私のところにやって来るの、
金の指輪を返すために！

あなたはネッカー川で草刈りをしている？
それともライン川？
どっちでもいいから
あなたもあなたの指輪を私に向けて投げ入れてね！

Wo die schönen Trompeten blasen

トランペットが美しく鳴り響くところ

Wer ist denn draußen und wer klopfet an,
der mich so leise, so leise wecken kann!?

外で扉を叩いているのは誰？
密(ひそ)やかな声で私を起こすのは？

Das ist der Herzallerlieble dein,
steh' auf und laß mich zu dir ein!
Was soll ich hier nun länger steh'n?
Ich seh' die Morgenröt' aufgeh'n,
die Morgenröt', zwei helle Stern'.
Bei meinem Schatz da wär' ich gern',
bei meinem Herzallerlieble.

俺はおまえの最愛の人だよ、
目を覚まして俺を中に入れておくれ！
どうしてここでずっと立っていなきゃいけないんだい？
日が昇ってきたのが見えるよ
朝焼けと2つの明るい星が見える
愛しい人おまえのもとに行きたい、
誰より愛する人のもとに

Das Mädchen stand auf und ließ ihn ein;
sie heißt ihn auch willkommen sein.

乙女は起き上がって彼を引き入れ
歓迎の言葉で話しかけた

Willkommen lieber Knabe mein,
so lang hast du gestanden!
Sie reicht' ihm
auch die schneeweiße Hand.
Von ferne sang die Nachtigall,
das Mädchen fing zu weinen an.

愛しい人、よく来てくれたわ
長い間立っていたのね
彼女は雪のように白い手を
彼に差しだした
遠くからナイチンゲールが歌っていた
乙女は泣きだした

Ach weine nicht, du Liebste mein,
ach weine nicht, du Liebste mein,
auf's Jahr sollst du mein Eigen sein.
Mein Eigen sollst du werden gewiß,
wie's Keine sonst auf Erden ist!
O Lieb auf grüner Erden.

どうか泣かないで、愛しい人よ！
どうか泣かないで、愛しい人よ！
一年のうちにおまえは俺ものになる
きっと俺のものになる、
地上にふたりといないおまえになるんだ！
緑の大地に立つ愛しい人よ

Ich zieh' in Krieg auf grüne Haid',

俺は緑の丘を越えて戦争に行く

die grüne Haide, die ist so weit!
Allwo dort die schönen
  Trompeten blasen,
da ist mein Haus,
  mein Haus von grünem Rasen.

広々した緑の丘を越えて！
美しいトランペットが響くところなら
　どこでも
そこが俺の家だ、
緑に囲まれた俺の家だ

C

26 & 27. SEPT. 2025

Das irdische Leben

„Mutter, ach Mutter, es hungert mich!
Gieb mir Brot, sonst sterbe ich!“
„Warte nur! Warte nur, mein liebes Kind!
Morgen wollen wir ernten geschwind!“

Und als das Korn geerntet war,
rief das Kind noch immerdar:
„Mutter, ach Mutter, es hungert mich!
Gieb mir Brot, sonst sterbe ich!“
„Warte nur! Warte nur, mein liebes Kind!
Morgen wollen wir dreschen geschwind!“

Und als das Korn gedroschen war,
rief das Kind noch immerdar:
„Mutter, ach Mutter, es hungert mich!
Gieb mir Brot, sonst sterbe ich!“
„Warte nur! Warte nur, mein liebes Kind!
 Morgen wollen wir backen geschwind!“

Und als das Brot gebacken war,
lag das Kind auf der Totenbahr’!

浮世の生活

お母さん、お母さん、おなかが減ったよ！
パンをちょうだい、死んでしまうよ！
少し待ってね、愛しい我が子よ、少しだけ！
明日には刈り取りをするから！

そして麦の刈り取りをしても
なおこどもは叫んだ
お母さん、お母さん、おなかが減ったよ！
パンをちょうだい、死んでしまうよ！
少し待ってね、愛しい我が子よ、少しだけ！
明日にはすぐ脱穀をするから

そして麦の脱穀をしても
なおこどもは叫んだ
お母さん、お母さん、おなかが減ったよ！
パンをちょうだい、死んでしまうよ！
少し待ってね、愛しい我が子よ、少しだけ！
明日にはすぐパンを焼くから

しかしパンが焼けたとき
こどもはもう棺の中に横たわっていた

Das himmlische Leben

Wir genießen die himmlischen Freuden,
d’rum tun wir das Irdische meiden!
Kein weltlich’ Getümmel
hört man nicht im Himmel!
Lebt Alles in sanftester Ruh’!
Wir führen ein englisches Leben!
Sind dennoch ganz lustig daneben!

天上の生活

私たちは天国の生活を楽しんでいるのだから
もうこの世に用はない
この世の喧騒は
天国には聞こえてこない
私たちは天使のような暮らしをしている
おまけにそれはとても陽気な暮らしで
私たちは踊ったり跳んだり

Wir tanzen und springen,
wir hüpfen und singen!
Sankt Peter im Himmel sieht zu!

Johannes das Lämmlein auslasset!
Der Metzger Herodes drauf passet!
Wir führen ein geduldig's,
unschuldig's, geduldig's,
ein liebliches Lämmlein zu Tod.
Sankt Lucas den Ochsen tät schlachten
ohn' einig's Bedenken und Trachten!
Der Wein kost' kein Heller
im himmlischen Keller!
Die Englein, die backen das Brot.

Gut' Kräuter von allerhand Arten,
die wachsen im himmlischen Garten,
gut' Spargel, Fisolen
und was wir nur wollen,
ganze Schüsseln voll sind uns bereit.
Gut' Äpfel, gut' Birn' und gut' Trauben!
Die Gärtner, die alles erlauben!
Willst Rehbock, willst Hasen?
Auf offener Straßen
sie laufen herbei!

Sollt ein Festtag etwa kommen,
alle Fische gleich mit Freuden
angeschwommen!
Dort lauft schon Sankt Peter
mit Netz und mit Köder
zum himmlischen Weiher hinein!
Sankt Martha die Köchin muß sein!

Kein' Musik ist ja nicht auf Erden,
die unsrer verglichen kann werden.
Elftausend Jungfrauen
zu tanzen sich trauen!
Sankt Ursula selbst dazu lacht.
Cäcilia mit ihren Verwandten
sind treffliche Hofmusikanten!
Die englischen Stimmen
ermuntern die Sinnen!

跳(は)ねたり歌ったりする
そして天国の聖ペテロが私たちを見守ってくれる

聖ヨハネが子羊を放つと
肉屋のヘロデがそれを狙う
辛抱強くて
無垢(むく)で慎ましく
かわいらしい子羊を殺すのだ
聖ルカが牡牛を殴り殺す
なんのためらいもなしだ
ここでは酒はただ
天国の酒場なんだから
パンは天使が焼いてくれる

おいしい野菜はなんでも
天国の庭で育つ
おいしいアスパラガス、インゲン豆
そしてほしいものはなんでも
ボールいっぱいに用意されている
おいしいリンゴ、梨、ぶどう
庭番がなんでも食べさせてくれる
シカ肉かウサギ肉がほしい？
それなら表の通りに出れば
向こうから走ってやってくる

もし精進の日なら
あらゆる魚が喜んで押し寄せてくる

あそこでもう聖ペテロが
網と餌をもって
天国の池の中に入っていく
きっと料理係は聖マルタだ

地上のどんな音楽も
私たちの音楽にはかなわない
無数の乙女たちが
踊りだすのだから
聖ウルズラすら微笑んでそれを見ている
聖チェチーリアと彼女のお仲間は
最高の宮廷楽士さ
天使たちの声が
五感を高め

Daß Alles für Freuden erwacht!

すべてのものが歓びに目覚めるのだ！

Urlicht

O Röschen rot!

Der Mensch liegt in größter Not!
Der Mensch liegt in größter Pein!
Je lieber möcht' ich im Himmel sein,
 je lieber möcht' ich im Himmel sein!

Da kam ich auf einen breiten Weg.
Da kam ein Engelein
  und wollt mich abweisen.
Ach nein! Ich ließ mich nicht abweisen!
Ach nein! Ich ließ mich nicht abweisen:
Ich bin von Gott
und will wieder zu Gott!
Der liebe Gott,
  der liebe Gott wird mir ein Lichtchen
  geben,
wird leuchten mir
  bis in das ewig selig Leben!

原光

おお、小さなバラよ！

人は大いなる苦悩の中で横たわっている！
人は大いなる苦痛の中に横たわっている！
いっそ私は天国に行きたいものだ！
いっそ私も天国に行きたいものだ！

私は広い道を歩いていた
すると天使がやってきた
そして出て行けと言った
いやだ！ 出ていかないぞ！
いやだ！ 出ていかないぞ！
私だって神様から生まれたんだ
だから神様のところへ戻りたいんだ！
優しい神様は
小さな光をくれるはず

私の道を照らしてくれるはず
至福の永遠の命に私がたどりつくまで！

C 2025 SEPTEMBER
［第2044回］

独創的な響きで
北欧の情景を描いた

ジャン・シベリウス

Jean Sibelius (1865–1957)

若きシベリウスは、ヴァイオリン奏者を目指していたこともあったが、極度のあがり症で演奏家への道を断念、作曲家への道を歩むこととなる。フィンランドの民謡に根差しながら、自らの作風を確立させた《4つの伝説》は、シベリウスの初期作品のなかでも指折りの傑作だ。壮大な自然が目の前に広がるかのような、神秘的で独創的な響きが聞かれる。ここで見出した自身の方向性が、彼をフィンランドを代表する作曲家へと押し上げた。

民族叙事詩『カレワラ』

「カレワラ」とはフィンランド語で「英雄（カレワ）の国」の意で、フィンランドを指す。古くからフィンランドで伝承されてきた神話的な英雄叙事詩が1835年にまとめられて出版されると、大きな反響を呼び、その後のフィンランド人の精神的支柱となった。シベリウスも熱心に読み込み、『カレワラ』を題材とした作品を多く作曲している。

美しい白鳥が黄泉の国の黒い川で羽を休める｜イラストレーション：©IKE

2025年10月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

98歳の桂冠名誉指揮者**ヘルベルト・ブロムシュテット**が登場。N響を愛してやまないマエストロは、昨年秋に6回のコンサートを完遂し、その後も欧米で旺盛な活動を続けている。今回も万全の体制を整えて、日本に迎えたい。

言葉を介さずに神をたたえる

［**Aプログラム**］の2曲は、どちらも神への賛美を歌った旧約聖書の「詩篇（しへん）」をテキストに持つ。**《詩篇交響曲》**は、信仰から離れていた**ストラヴィンスキー**がロシア正教に復帰して間もない1930年の作曲。特殊な編成のオーケストラが、新古典主義風の洗練された響きを聴かせるのと対照的に、狭い音域を上下する合唱は、まるで中世の典礼歌のような趣である。両者が掛けあうさまは、正教の交唱を思わせるが、見方を変えれば、価値観の揺らぎに苛まれる人間の苦悩を象徴するようでもある。終楽章では2つが溶け合い、静かに高揚するが、これはストラヴィンスキーが示したひとつの答えだったかもしれない。

一方、19世紀半ばに書かれた**《讃歌》**には、プロテスタントだった**メンデルスゾーン**の迷いなき信仰心が反映されている。意外にもブロムシュテットは長い間、この曲にあまり関心がなかったという。90歳近くになって、作曲家が聖書にどう向き合ったかを知ることで、初めて共感を抱くようになった。特に第1部〈シンフォニア〉への見方は、根本的に変わった。ここで達成されている「言葉を介さずに神をたたえる」姿勢は、マエストロが長年、指揮活動によって実践しようとしてきたことだったのだ。

世代を超えて

［**Bプログラム**］の**《ホルベアの時代から》**は、バロック時代の様式で書かれた弦楽合奏曲。続く**ニルセン《フルート協奏曲》**は20世紀の作品だが、やはり小ぶりのオーケストラで演奏される。共に、年齢を重ねるごとにみずみずしさを増すブロムシュテットで聴いてみたい音楽である。**セバスティアン・ジャコー**とマエストロは、年齢差ちょうど60歳。2人が世代を超えて作品の本質に迫る。

ブロムシュテットとN響の**シベリウス《交響曲第5番》**は1988年以来。上空を舞う白鳥の群れを見て着想を得たという終楽章の金管のテーマに、この曲の英雄的な性格が表れているが、ソナタ形式にスケルツォを継ぎ足した第1楽章もかなり個性的である。大地に草木が芽吹き、次第に枝葉を広げるように、新しい楽想は勢いを増していく。次世代へとバトンが受け

渡されていく自然の摂理を連想しないではいられない。現役最高齢の指揮者は、この箇所にどんな思いを込めるのだろう。

あの体験を再び?
ブラームス円熟期の交響曲

［Cプログラム］では、**ブラームス**円熟期の名曲を送る。《**ピアノ協奏曲第2番**》を弾くのは、ノルウェー出身の名手、**レイフ・オヴェ・アンスネス**。ブロムシュテットとは気心の通じた間柄だが、2023年の共演予定はマエストロの来日中止で叶(かな)わなかった。この時、尾高忠明の代役指揮で演奏されたベートーヴェン《皇帝》は、一音一音のタッチに神経が行き届いた名演で、会場に居合わせた誰もがその美しさに息を呑(の)んだ。

長調と短調の間で揺れ動く《**交響曲第3番**》をブロムシュテットは、喜びとも不安とも取れる「モナリザの微笑」に例えたことがあるが、一面的ではない複雑な情感を表出できる点に、とりわけこの曲を愛する理由があるだろう。

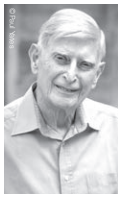
2019年に演奏した際には答礼のあと、阿(あ)吽(うん)の呼吸で第3楽章がリピートされた。大げさな身振りとは程遠いマエストロの指揮により、親密なハーモニーの余韻が、いつまでもホールに漂っていた。コンサートに出かける喜びは、まさにこのような瞬間にある。再び同じ体験ができるだろうか。いや、ブロムシュテットの場合“同じ体験”はあり得ない。常に変わり続けること、高みに上り続けることが、彼の信条なのだから。

［西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹］

A
10/18 土 6:00pm
10/19 日 2:00pm
NHKホール

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲（日本語字幕付き）
メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」＊
（日本語字幕付き）

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ソプラノ：クリスティーナ・ランツハマー＊
メゾ・ソプラノ：マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト＊
テノール：ティルマン・リヒディ＊
合唱：スウェーデン放送合唱団
カバーコンダクター：ミシェル・タバシュニク



B
10/9 木 7:00pm
10/10 金 7:00pm
サントリーホール

グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40
ニルセン／フルート協奏曲
シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
フルート：セバスティアン・ジャコー
カバーコンダクター：エヴァ・オリカイネン

C
10/24 金 7:00pm
10/25 土 2:00pm
NHKホール

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：レイフ・オヴェ・アンスネス
カバーコンダクター：下野竜也

チケットのご案内(定期公演 2025年9月〜2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10〜44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2025年7月6日[日](定期会員先行)／2025年7月13日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2025年10月14日[火](定期会員先行)／2025年10月17日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2026年2月10日[火](定期会員先行)／2026年2月14日[土](一般)

料金(税込)

年間会員券(9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

(　)内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2025年7月23日[水](定期会員先行)／2025年7月27日[日](一般)
	12・1・2月	2025年10月22日[水](定期会員先行)／2025年10月26日[日](一般)
	4・5・6月	2026年2月19日[木](定期会員先行)／2026年2月23日[月・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円〜で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報でご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み

WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp

N響ガイド｜TEL 0570-02-9502
営業時間：10:00am〜5:00pm
定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am〜開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am〜3:00pm の営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター
最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2025–26定期公演プログラム

2025 09

A

第2042回
9/13 土 6:00pm
9/14 日 2:00pm
NHKホール

ルイージがシーズン開幕に満を持してライフワークに臨む
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
フランツ・シュミット／交響曲 第4番 ハ長調

指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:イェフィム・ブロンフマン

	一般	ユースチケット
S	¥11,000	¥5,500
A	¥9,500	¥4,500
B	¥7,600	¥3,500
C	¥6,000	¥2,800
D	¥5,000	¥1,800
E	¥3,000	¥1,400

B

第2043回
9/18 木 7:00pm
9/19 金 7:00pm
サントリーホール

ルイージが浮き彫りにする《イタリア》に刻まれた「光と陰」
武満 徹／3つの映画音楽
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61
メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

指揮:ファビオ・ルイージ　ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥4,000
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥2,750

C

第2044回
9/26 金 7:00pm
9/27 土 2:00pm
NHKホール

欧米メジャーオケを席巻する情熱の指揮者がN響初登場
マーラー／こどもの不思議な角笛—「ラインの伝説」*「トランペットが美しく鳴り響くところ」*「浮世の生活」*「天上の生活」*「原光」*
シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22

指揮:ライアン・バンクロフト　バリトン:トマス・ハンプソン*

	一般	ユースチケット
S	¥10,000	¥5,000
A	¥8,500	¥4,000
B	¥6,500	¥3,100
C	¥5,400	¥2,550
D	¥4,300	¥1,500
E	¥2,200	¥1,000

2025 10

A

第2046回
10/18 土 6:00pm
10/19 日 2:00pm
NHKホール

マエストロが祈りを込めて贈る 2つの合唱付き交響曲
ストラヴィンスキー／詩篇交響曲(日本語字幕付き)
メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*
(日本語字幕付き)

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット　ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー*
メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト*
テノール:ティルマン・リヒディ*　合唱:スウェーデン放送合唱団
カバーコンダクター:ミシェル・タバシュニク

	一般	ユースチケット
S	¥15,000	¥7,000
A	¥12,500	¥6,000
B	¥10,000	¥5,000
C	¥8,000	¥4,000
D	¥6,500	¥3,000
E	¥4,500	¥2,000

B

第2045回
10/9 木 7:00pm
10/10 金 7:00pm
サントリーホール

ブロムシュテットが慈しむ気品に満ちた北欧の傑作たち
グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40
ニルセン／フルート協奏曲
シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット　フルート:セバスティアン・ジャコー
カバーコンダクター:エヴァ・オリカイネン

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥4,000
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥2,750

C

第2047回
10/24 金 7:00pm
10/25 土 2:00pm
NHKホール

巨匠と名ピアニストの飽くなき探究心が拓く新たなブラームスの地平
ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット　ピアノ:レイフ・オヴェ・アンスネス
カバーコンダクター:下野竜也

	一般	ユースチケット
S	¥13,000	¥6,500
A	¥11,000	¥5,200
B	¥8,500	¥4,000
C	¥7,000	¥3,500
D	¥5,600	¥2,000
E	¥3,500	¥1,700

2025 11

A

第2048回
11/8 土 6:00pm
11/9 日 2:00pm
NHKホール

デュトワ、十八番のメシアンとホルストを携え 8年振りに定期公演に登場
メシアン／神の現存の3つの小典礼*
ホルスト／組曲「惑星」作品32

指揮:シャルル・デュトワ　ピアノ:小菅 優*　オンド・マルトノ:大矢素子*
女声合唱:東京オペラシンガーズ

	一般	ユースチケット
S	¥13,000	¥6,500
A	¥11,000	¥5,200
B	¥8,500	¥4,000
C	¥7,000	¥3,500
D	¥5,600	¥2,000
E	¥3,500	¥1,700

B

第2050回
11/20 木 7:00pm
11/21 金 7:00pm
サントリーホール

大きく羽ばたく俊英が得意のドイツ・プログラムで再登場
シューマン／「マンフレッド」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:ラファエル・パヤーレ　ピアノ:エマニュエル・アックス

	一般	ユースチケット
S	¥12,000	¥6,000
A	¥10,000	¥5,000
B	¥8,000	¥4,000
C	¥6,500	¥3,250
D	¥5,500	¥2,750

C

第2049回
11/14 金 7:00pm
11/15 土 2:00pm
NHKホール

当世随一の解釈者のタクトでラヴェルを味わい尽くす
ラヴェル生誕150年
ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル／組曲「クープランの墓」
ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)*

指揮:シャルル・デュトワ　合唱:二期会合唱団*

	一般	ユースチケット
S	¥13,000	¥6,500
A	¥11,000	¥5,200
B	¥8,500	¥4,000
C	¥7,000	¥3,500
D	¥5,600	¥2,000
E	¥3,500	¥1,700

A NHKホール
土 開場5:00pm 開演6:00pm
日 開場1:00pm 開演2:00pm

B サントリーホール
木 開場6:20pm 開演7:00pm
金 開場6:20pm 開演7:00pm

C NHKホール
金 開場6:00pm 開演7:00pm
土 開場1:00pm 開演2:00pm

2025 12

A
第2051回
11/29 土 6:00pm
11/30 日 2:00pm
※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。
NHKホール

《人魚姫》を貫く自己喪失と再生の物語
ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77
ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」

指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:レオニダス・カヴァコス

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B
第2052回
12/4 木 7:00pm
12/5 金 7:00pm
サントリーホール

オーケストラと大オルガンが名ホールで絢爛に双鳴するひととき
藤倉 大／管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー
～ピエール・ブーレーズの思い出に～(2025)
［NHK交響楽団委嘱作品／世界初演］
フランク／交響的変奏曲＊
サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」

指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:トム・ボロー＊　オルガン:近藤 岳

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C
第2053回
12/12 金 7:00pm
12/13 土 2:00pm
NHKホール

ニルセン最高峰の交響曲をルイージ入魂の指揮で味わう
ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11
または第2番 ヘ短調 作品21
ニルセン／交響曲 第4番 作品29「不滅」

指揮:ファビオ・ルイージ
ピアノ:第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026 01

A
第2054回
1/17 土 6:00pm
1/18 日 2:00pm
NHKホール

ソヒエフ、満を持してN響でマーラーを初披露
マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

指揮:トゥガン・ソヒエフ

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B
第2056回
1/29 木 7:00pm
1/30 金 7:00pm
サントリーホール

お家芸のプロコフィエフ《第5番》を13年振りにN響で指揮
ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)／
歌劇「ホヴァンシチナ」―前奏曲「モスクワ川の夜明け」
ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 ヘ長調 作品102
プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮:トゥガン・ソヒエフ　ピアノ:松田華音

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C
第2055回
1/23 金 7:00pm
1/24 土 2:00pm
NHKホール

夢幻と高揚に誘う――フランス・ロシアのナラティブな作品たち
ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
デュティユー／チェロ協奏曲「遥かなる遠い国へ」
リムスキー・コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57
ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

指揮:トゥガン・ソヒエフ　チェロ:上野通明

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026 02

A
第2057回
2/7 土 6:00pm
2/8 日 2:00pm
NHKホール

名門歌劇場で存在感を放つ　ジョルダンのワーグナー
シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」
ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」
―「ジークフリートのラインの旅」「ジークフリートの葬送行進曲」
「ブリュンヒルデの自己犠牲」＊

指揮:フィリップ・ジョルダン　ソプラノ:タマラ・ウィルソン＊

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

B
第2059回
2/19 木 7:00pm
2/20 金 7:00pm
サントリーホール

待望の再登場! フルシャのドヴォルザーク＆ブラームス
ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
ブラームス／セレナード 第1番 ニ長調 作品11

指揮:ヤクブ・フルシャ
ヴァイオリン:ヨゼフ・シュパチェク

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C
第2058回
2/13 金 7:00pm
2/14 土 2:00pm
NHKホール

創立100年に問う N響設立者・近衛の《展覧会の絵》
創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」
コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲
フンメル／トランペット協奏曲 ホ長調
ムソルグスキー(近衛秀麿編)／組曲「展覧会の絵」

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ　トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者)

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026 04

A 第2060回
4/11 土 6:00pm
4/12 日 2:00pm
NHKホール

ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1
ブルックナー／交響曲 第9番 ニ短調

指揮:ファビオ・ルイージ
チェロ:ヤン・フォーグラー

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B 第2061回
4/16 木 7:00pm
4/17 金 7:00pm
サントリーホール

モーツァルトとマーラーに通底する絶対美の深淵に触れる
モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

指揮:ファビオ・ルイージ　クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C 第2062回
4/24 金 7:00pm
4/25 土 2:00pm
NHKホール

下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅
創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」
外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26
伊福部 昭／交響譚詩
ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」―「4つの海の間奏曲」作品33a

指揮:下野竜也　ピアノ:反田恭平

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026 05

A 第2064回
5/23 土 6:00pm
5/24 日 2:00pm
NHKホール

ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム
ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102
ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25

指揮:ミヒャエル・ザンデルリンク
ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ　チェロ:ターニャ・テツラフ

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

B 第2063回
5/14 木 7:00pm
5/15 金 7:00pm
サントリーホール

「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代独作品の諸相
創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」
山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」
ハルトマン／葬送協奏曲＊
須賀田礒太郎／交響的序曲 作品6
ヒンデミット／交響曲「画家マチス」

指揮:山田和樹　ヴァイオリン:キム・スーヤン＊

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C 第2065回
5/29 金 7:00pm
5/30 土 2:00pm
NHKホール

旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす
謎多きショスタコーヴィチ《第4番》の真価
ヴァスクス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品
［タイトル未定／日本初演］
ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43

指揮:アンドリス・ポーガ

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026 06

A 第2067回
6/13 土 6:00pm
6/14 日 2:00pm
NHKホール

ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場
ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453
バルトーク／管弦楽のための協奏曲

指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン
ピアノ:コンラッド・タオ

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B 第2066回
6/4 木 7:00pm
6/5 金 7:00pm
サントリーホール

ドゥネーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選
オネゲル／交響詩「夏の牧歌」
ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7
イベール／寄港地
ドビュッシー／交響詩「海」

指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ　メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C 第2068回
6/19 金 7:00pm
6/20 土 2:00pm
NHKホール

尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち
HIMARI、N響定期に初登場
シベリウス／アンダンテ・フェスティーヴォ
シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47
ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44

指揮:尾高忠明　ヴァイオリン:HIMARI

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

10/29 水 7:00pm｜明電舎 presents N響名曲コンサート2025

サントリーホール

指揮:大友直人　チェロ:鳥羽咲音
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
シベリウス／交響曲 第2番 ニ長調 作品43

料金(税込):一般｜SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円
ユースチケット(29歳以下)｜SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜6月23日(月)10:00am
一般｜6月27日(金)10:00am

主催:NHK交響楽団
特別協賛:株式会社明電舎

12/8 月 7:00pm｜放送100年 N響×アニメ「青のオーケストラ」スペシャルコンサート

NHKホール

指揮:キンボー・イシイ
ヴァイオリン:東 亮汰★(劇中で青野一の演奏を担当)　山田友里恵◆(劇中で秋音律子の演奏を担当)
クリスマス・メドレー(萩森英明編／もろびとこぞりて〜アヴェ・マリア〜ハレルヤ・コーラス)
ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」—第4楽章
チャイコフスキー／バレエ組曲「くるみ割り人形」作品71a—「花のワルツ」
バッハ／2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043から★◆
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64—第1楽章★
サン・サーンス／歌劇「サムソンとデリラ」—「バッカナール」
芥川也寸志／交響管弦楽のための音楽
ほか

料金(税込):一般｜S席9,000円 A席8,000円 B席6,000円 C席5,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席4,500円 A席4,000円 B席3,000円 C席2,500円

チケット発売日:10月10日(金)10:00am
※N響定期会員の先行販売および割引はございません

主催:NHK、NHK交響楽団
協力:小学館

12/20 土 4:00pm
12/21 日 2:00pm
12/23 火 7:00pm
12/24 水 7:00pm
ベートーヴェン「第9」演奏会

NHKホール

指揮:レナード・スラットキン
ソプラノ:中村恵理　メゾ・ソプラノ:藤村実穂子　テノール:福井 敬　バリトン:甲斐栄次郎　合唱:新国立劇場合唱団
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月19日(金)10:00am
一般｜9月23日(火・祝)10:00am

※12月23日はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。お問合せ:NHK厚生文化事業団 TEL(03)3476-5955

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(23日公演のみ)
協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

12/26 金 7:00pm｜かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:レナード・スラットキン
ソプラノ:中村恵理　メゾ・ソプラノ:藤村実穂子　テノール:福井 敬　バリトン:甲斐栄次郎
合唱:新国立劇場合唱団　オルガン:近藤 岳 *
バッハ／前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV552*
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般｜S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円
ユースチケット(29歳以下)｜S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行｜9月19日(金)10:00am
一般｜9月23日(火・祝)10:00am

主催／NHK交響楽団　特別協賛／株式会社かんぽ生命保険

お申し込み

WEBチケットN響　https://nhkso.pia.jp

N響ガイド｜TEL 0570-02-9502
営業時間:10:00am～5:00pm
定休日:土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

9/21 日 3:00pm | 第27回 NHK交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ（足利市民プラザ）・文化ホール

指揮：ファビオ・ルイージ　ヴァイオリン：マリア・ドゥエニャス

武満 徹／3つの映画音楽
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61
メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

主催：（公財）足利市みどりと文化スポーツ財団　お問合せ：あしかがフラワーパークプラザ（足利市民プラザ） TEL（0284）72-8511

10/3 金 7:00pm | NHK音楽祭2025

NHKホール

指揮：エヴァ・オリカイネン　トランペット：児玉隼人　ピアノ：ソフィア・リュウ

ラヴェル／ラ・ヴァルス
トマジ／トランペット協奏曲
サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 作品22
R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲

主催：NHK／NHKプロモーション　お問合せ：ハローダイヤル TEL（050）5541-8600

10/4 土 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

出演者・曲目は10月3日と同じ

主催：NHK大阪放送局／NHK交響楽団　お問合せ：NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL（06）6947-5000

10/13 月祝 3:00pm | NHK交響楽団ベストクラシックス 沼尻竜典×岡本誠司（Vn）×NHK交響楽団

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮：沼尻竜典　ヴァイオリン：岡本誠司

ロッシーニ／歌劇「ウィリアム・テル」序曲
ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26
ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88

主催：葛飾区文化施設指定管理者　お問合せ：かつしかシンフォニーヒルズ TEL（03）5670-2233

11/3 月祝 3:00pm | NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会

パルテノン多摩 大ホール

指揮:広上淳一　ピアノ:小林海都
伊福部 昭／SF交響ファンタジー 第1番
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K. 467
ラヴェル／ボレロ
ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第1番、第2番

主催:パルテノン多摩共同事業体　お問合せ:パルテノン多摩 TEL(042)376-8181

11/23 日 3:30pm | NHK交響楽団 豊田公演

豊田市民文化会館

指揮:ラファエル・パヤーレ　ピアノ:エマニュエル・アックス
シューマン／「マンフレッド」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

主催:(公財)豊田市文化振興財団／豊田市　お問合せ:豊田市コンサートホール・能楽堂 TEL(0565)35-8200

12/16 火 7:00pm | 映像の世紀コンサート

サントリーホール

指揮:下野竜也　音楽・ピアノ:加古 隆　ナレーション:山根基世
加古 隆／パリは燃えているか、時の刻印、シネマトグラフ、はるかなる王宮、神のパッサカリア、最後の海戦、未来世紀、大いなるもの東方より、マネーは踊る、狂気の影、黒い霧、ザ・サード・ワールド、睡蓮のアトリエ、愛と憎しみの果てに

主催:エイベックス・クラシックス　お問合せ:チケットスペース TEL(03)3234-9999

オーチャード定期

Bunkamuraオーチャードホール

11/2 日 3:30pm

出演者・曲目は11月3日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員
Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長｜間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長｜中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取｜加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長｜小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長｜喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長｜澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO｜小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長｜石原恒和

特別協力

BMWジャパン	代表取締役社長｜長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長｜井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長｜山浦 敦
ぴあ株式会社	代表取締役社長｜矢内 廣

賛助会員

- 常陸宮
- ㈱アートレイ
  代表取締役｜小森活美
- ㈱アイシン
  取締役社長｜吉田守孝
- ㈱アインホールディングス
  代表取締役社長｜大谷喜一
- 葵設備工事㈱
  代表取締役社長｜安藤正明
- ㈱あ佳音
  代表取締役社長｜遠山信之
- AXLBIT㈱
  代表取締役｜長谷川章博
- アサヒグループホールディングス㈱
  代表取締役社長兼CEO｜勝木敦志
- ㈱朝日工業社
  代表取締役社長｜髙須康有
- 朝日信用金庫
  理事長｜伊藤康博
- 有限責任 あずさ監査法人
  理事長｜山田裕行
- アットホーム㈱
  代表取締役社長｜鶴森康史
- イーソリューションズ㈱
  代表取締役社長｜佐々木経世
- EY新日本有限責任監査法人
  理事長｜松村洋季
- ㈱井口一世
  代表取締役｜井口一世
- 池上通信機㈱
  代表取締役社長｜清森洋祐
- ㈠財ITOH
  代表理事｜伊東忠俊
- 井村屋グループ㈱
  取締役社長｜大西安樹
- ㈲IL VIOLINO MAGICO
  代表取締役｜山下智之
- ㈱インターネットイニシアティブ
  代表取締役会長｜鈴木幸一
- 内 聖美
- 内山貴史
- SMBC日興証券㈱
  代表取締役社長｜吉岡秀二
- ㈱NHKアート
  代表取締役社長｜石原 勉
- NHK営業サービス㈱
  代表取締役社長｜手島一宏
- ㈱NHKエデュケーショナル
  代表取締役社長｜有吉伸人
- ㈱NHKエンタープライズ
  代表取締役社長｜有吉伸人
- ㈻NHK学園
  理事長｜荒木美弥子
- ㈱NHKグローバルメディアサービス
  代表取締役社長｜神田真介

- ㈱NHK出版
  代表取締役社長｜江口貴之
- ㈱NHKテクノロジーズ
  代表取締役社長｜山口太一
- ㈱NHKビジネスクリエイト
  代表取締役社長｜椿 健一郎
- ㈱NHKプロモーション
  代表取締役社長｜見郵俊一
- ㈱NTTドコモ
  代表取締役社長｜前田義晃
- ㈱NTTファシリティーズ
  代表取締役社長｜川口 晋
- ENEOSホールディングス㈱
  代表取締役 社長執行役員｜宮田知秀
- 荏原冷熱システム㈱
  代表取締役｜加藤恭一
- MNインターファッション㈱
  代表取締役社長｜吉本一心
- ㈱エレトク
  代表取締役｜間部惠造
- 大崎電気工業㈱
  代表取締役会長｜渡辺佳英
- ㈱大塚商会
  代表取締役社長｜大塚裕司
- 大塚ホールディングス㈱
  代表取締役社長兼CEO｜井上 眞
- ㈱大林組
  代表取締役社長｜佐藤俊美
- オールニッポンヘリコプター㈱
  代表取締役社長｜寺田 博
- 岡崎悦子
- 岡崎耕治
- 小田急電鉄㈱
  取締役社長｜鈴木 滋
- 陰山建設㈱
  代表取締役｜陰山正弘
- 鹿島建設㈱
  代表取締役社長｜天野裕正
- ㈱加藤電気工業所
  代表取締役｜加藤浩章
- ㈱金子製作所
  代表取締役｜金子晴房
- カルチュア・エンタテインメント㈱
  代表取締役 社長執行役員｜中西一雄
- ㈱関電工
  取締役社長｜田母神博文
- ㈱かんぽ生命保険
  取締役兼代表執行役社長｜谷垣邦夫
- キッコーマン㈱
  代表取締役社長CEO｜中野祥三郎
- 木下彰子
- ㈱教育芸術社
  代表取締役｜市川かおり
- ㈱共栄サービス
  代表取締役｜半沢治久
- ㈱共同通信会館
  代表取締役専務｜小渕敏郎
- (一社)共同通信社
  社長｜沢井俊光
- キリンホールディングス㈱
  代表取締役会長CEO｜磯崎功典
- (学)国立音楽大学
  理事長｜重盛次正
- 京王電鉄㈱
  代表取締役社長 社長執行役員
  都村智史
- 京成電鉄㈱
  代表取締役社長 社長執行役員
  天野貴夫
- KDDI㈱
  代表取締役社長CEO｜松田浩路
- (医)社団 恒仁会
  理事長｜伊藤恒道
- ㈱構造計画研究所ホールディングス
  代表執行役｜服部正太
- ㈱コーポレイトディレクション
  代表取締役｜小川達大
- コグニティブリサーチラボ㈱
  代表取締役｜苦米地英人
- 小林弘侑
- 佐川印刷㈱
  代表取締役会長｜木下宗昭
- 佐藤弘康
- サフラン電機㈱
  代表取締役｜藤崎貴之
- ㈱サンセイ
  代表取締役｜冨田佳佑
- サントリーホールディングス㈱
  代表取締役社長｜鳥井信宏
- ㈱ジェイ・ウィル・コーポレーション
  代表取締役社長｜佐藤雅典
- JCOM㈱
  代表取締役社長｜岩木陽一
- ㈱シグマクシス・ホールディングス
  代表取締役社長｜太田 寛
- ㈱ジャパン・アーツ
  代表取締役社長｜二瓶純一
- ㈱集英社
  代表取締役社長｜廣野眞一
- ㈱小学館
  代表取締役社長｜相賀信宏
- ㈱商工組合中央金庫
  代表取締役社長｜関根正裕
- 庄司勇次朗・惠子
- ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱
- ㈱白川プロ
  代表取締役｜白川亜弥
- ㈲新赤坂健康管理協会
  代表取締役社長｜小池 学
- 信越化学工業㈱
  代表取締役社長｜斉藤恭彦
- 新角卓也
- 新菱冷熱工業㈱
  代表取締役社長｜加賀美 猛
- ㈱スカパーJSATホールディングス
  代表取締役社長｜米倉英一
- ㈱菅原
  代表取締役 会長兼社長｜古江訓雄
- スズキ㈱
  代表取締役社長｜鈴木俊宏
- 鈴木誠一郎
- 住友商事㈱
  代表取締役 社長執行役員 CEO
  上野真吾
- 住友電気工業㈱
  社長｜井上 治
- セイコーグループ㈱
  代表取締役会長兼グループCEO
  兼グループCCO｜服部真二
- 聖徳大学
  理事長・学長｜川並弘純
- 西武鉄道㈱
  代表取締役社長｜小川周一郎
- 清和綜合建物㈱
  代表取締役社長｜大串桂一郎
- 関彰商事㈱
  代表取締役会長｜関 正夫
- ㈱セノン
  代表取締役社長｜澤本 泉
- ㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
  代表取締役社長グループCEO｜村松俊亮

- 損害保険ジャパン㈱
  取締役社長｜石川耕治
- 第一三共㈱
  代表取締役会長｜眞鍋 淳
- 第一生命保険㈱
  代表取締役社長｜隅野俊亮
- 大成建設㈱
  代表取締役社長｜相川善郎
- 大日コーポレーション㈱
  代表取締役社長兼グループCEO
  鈴木忠明
- 高砂熱学工業㈱
  代表取締役社長｜小島和人
- ㈱ダク
  代表取締役｜福田浩二
- ㈱竹中工務店
  取締役執行役員社長｜佐々木正人
- 田中貴金属工業㈱
  代表取締役社長執行役員
  田中浩一朗
- 田原 昇
- ㈱ダブルスタンダード
  代表取締役｜清水康裕
- チャンネル銀河㈱
  代表取締役社長｜前田鎮男
- 中央日本土地建物グループ㈱
  代表取締役社長｜三宅 潔
- 中外製薬㈱
  代表取締役社長｜奥田 修
- ㈱電通
  代表取締役 社長執行役員｜佐野 傑
- ㈱テンポプリモ
  代表取締役｜中村聡武
- 東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱
  代表取締役会長｜石田建昭
- 東海旅客鉄道㈱
  代表取締役社長｜丹羽俊介
- 東急㈱
  取締役社長 社長執行役員｜堀江正博
- ㈱東急コミュニティー
  代表取締役社長｜木村昌平
- ㈱東急文化村
  代表取締役｜嶋田 創
- ㈱東京交通会館
  取締役社長｜ 細包憲志
- 東信地所㈱
  代表取締役｜堀川利通
- 東武鉄道㈱
  取締役社長｜都筑 豊
- 桐朋学園大学
  学長｜辰巳明子
- ㈱東北新社
  代表取締役社長｜小坂恵一
- 東北電力㈱
  代表取締役社長｜石山一弘
- 鳥取末広座㈱
  代表取締役｜西川八重子
- ㈳TOPPAN三幸会
  代表理事｜金子眞吾
- トヨタ自動車㈱
  代表取締役社長｜佐藤恒治
- 内外施設工業グループホールディングス㈱
  代表取締役社長｜林 克昌
- 中銀グループ
  代表｜渡辺蔵人
- 日鉄興和不動産㈱
  代表取締役社長｜三輪正浩
- 日東紡績㈱
  取締役 代表執行役会長｜辻 裕一
- ㈱日本アーティスト
  代表取締役｜幡野菜穂子
- 日本ガイシ㈱
  取締役社長｜小林 茂
- ㈱日本カストディ銀行
  代表取締役社長｜土屋正裕
- ㈱日本国際放送
  代表取締役社長｜前田浩志
- 日本たばこ産業㈱
  代表取締役社長｜寺畠正道
- 日本通運㈱
  代表取締役社長｜竹添進二郎
- 日本電気㈱
  取締役 代表執行役社長兼CEO
  森田隆之
- 日本BCP㈱
  代表取締役社長｜角谷育則
- ㈳日本放送協会共済会
  理事長｜竹添賢一
- 日本みらいホールディングス㈱
  代表取締役社長｜安嶋 明
- 日本郵政㈱
  取締役兼代表執行役社長｜根岸一行
- ㈱ニトリホールディングス
  代表取締役会長兼CEO｜似鳥昭雄
- ㈱ニフコ
  代表取締役社長｜柴尾雅春
- 野田浩一
- 野村ホールディングス㈱
  代表執行役社長｜奥田健太郎
- パナソニック ホールディングス㈱
  代表取締役 社長執行役員 グループCEO
  楠見雄規
- ㈱原田武夫国際戦略情報研究所
  代表取締役｜原田武夫
- ㈲パルフェ
  代表取締役｜伊藤良彦
- ぴあ㈱
  代表取締役社長｜矢内 廣
- ㈱ビー・ジー・エム
  代表取締役｜山川慎一郎
- ㈱フォトロン
  代表取締役｜瀧水 隆
- 福田三千男
- 富士通㈱
  代表取締役社長｜時田隆仁
- 富士通フロンテック㈱
  代表取締役社長｜櫛田龍治
- 古川宣一
- ペプチドリーム㈱
  代表取締役社長CEO｜リード・パトリック
- ㈱朋栄ホールディングス
  代表取締役｜清原克明
- ㈱放送衛星システム
  代表取締役社長｜角 英夫
- ㈳放送文化基金
  理事長｜濱田純一
- ホクト㈱
  代表取締役｜水野雅義
- ポラリス・キャピタル・グループ㈱
  代表取締役社長｜木村雄治
- 前田工繊㈱
  代表取締役社長｜前田尚宏
- 牧 寛之
- 町田優子
- 丸紅㈱
  代表取締役社長｜大本晶之
- 溝江建設㈱
  代表取締役｜溝江 弘

- 三井住友海上火災保険㈱
  代表取締役｜舩曳真一郎
- ㈱三井住友銀行
  頭取｜福留朗裕
- 三井住友信託銀行㈱
  取締役社長｜大山一也
- 三菱商事㈱
  代表取締役社長｜中西勝也
- ㈱緑山スタジオ・シティ
  代表取締役社長｜近藤明人
- 三橋産業㈱
  代表取締役会長｜三橋洋之
- 三橋洋之
- 三原穂積
- ㈱ミロク情報サービス
  代表取締役社長｜是枝周樹
- ㈶武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
  理事長｜福井直昭
- 明治ホールディングス㈱
  代表取締役社長CEO｜松田克也
- ㈱明電舎
  代表取締役 執行役員社長｜井上晃夫
- メットライフ生命保険㈱
  代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
  ディルク・オステイン
- ㈱目の眼
  社主｜櫻井 恵
- 森ビル㈱
  代表取締役社長｜辻 慎吾
- 森平舞台機構㈱
  代表取締役｜森 健輔
- 山田産業㈱
  代表取締役｜山田裕幸
- ㈱ヤマハミュージックジャパン
  代表取締役社長｜松岡祐治
- ユニオンツール㈱
  代表取締役会長｜片山貴雄
- 米澤文彦
- ㈱読売広告社
  代表取締役社長｜菊地英之
- ㈱読売旅行
  代表取締役社長｜岩上秀憲
- リコージャパン㈱
  代表取締役 社長執行役員 CEO｜笠井 徹
- 料亭 三長
  代表｜髙橋千善
- ㈱リンレイ
  代表取締役社長｜鈴木信也
- ㈲ルナ・エンタープライズ
  代表取締役｜白鳥正美
- ローム㈱
  代表取締役社長 社長執行役員｜東 克己
- YKアクロス㈱
  代表取締役社長｜田渕浩記
- YCC㈱
  代表取締役｜中山武之
- ㈱ワールド航空サービス
  代表取締役社長｜菊間陽介

（五十音順、敬称略）

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

1. **会費**：一口50万円（年間）
2. **期間**：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. **入会の特典**：『フィルハーモニー』、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
   N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈（遺言による寄付）を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております（三井住友信託銀行と提携）。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。
当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ	公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」	TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

岡田暁生（おかだ　あけお）

京都大学名誉教授。専門は19世紀から20世紀初頭の西洋音楽。著書に『クラシック音楽の大疑問』『モーツァルトのオペラ――「愛」の発見』『西洋音楽史――「クラシック」の黄昏』『リヒャルト・シュトラウス』（作曲家・人と作品シリーズ）など、共著書に『すごいジャズには理由がある』『配信芸術論』『ごまかさないクラシック音楽』など。

中村伸子（なかむら　のぶこ）

宮城県仙台市出身。東京藝術大学楽理科を経て同大学院音楽研究科（音楽学）修士課程修了。現在、ウィーン国立音楽大学エクシールアルテ・センターの上級研究員としてエーリヒ・ウォルフガング・コルンゴルトの書簡全集を編集するとともに、同オペラ《死の都》の一次資料に関して博士論文を執筆中。各種音楽媒体への寄稿のほか、楽曲解説、演奏会企画、字幕制作など多数。

西田紘子（にしだ　ひろこ）

九州大学大学院准教授。専門は欧米の音楽理論や音楽美学。著書に『ハインリヒ・シェンカーの音楽思想――楽曲分析を超えて』、共編著書に『近代日本と西洋音楽理論――グローバルな理論史に向けて』『音楽と心の科学史――音楽学と心理学が交差するとき』、共訳書に『ベートーヴェン症候群――音楽を自伝として聴く』など。

（五十音順、敬称略）

Information

退団	ヴァイオリン 木全利行（きまた　としゆき）2025年8月31日付で退団。

N響の出演番組

定期公演や特別公演の模様が放送されるほか、
大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。
NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館（N響定期公演ほか）
Eテレ 日曜9:00〜11:00pm

ベストオブクラシック
FM 7:35〜9:15pm
※2025年度から放送時間が変更になりました。

N響演奏会
FM 土曜4:00〜5:50pm（不定期）

クラシックTV（クラシック全般の話題を取り上げます）
Eテレ 木曜9:00〜9:30pm
月曜2:00〜2:30pm（再放送）

これらの番組は放送終了後も「NHKプラス」（テレビ）や「らじる★らじる」（ラジオ）で1週間何度でもご視聴いただけます。
出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP
1

スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

STEP
2

開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP
3

アンケートに答えて（約5分）、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。
定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて	ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

キリトリ

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara
Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

Shirabe Aoki
Ayumu Iizuka
○ Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Taiga Tojo
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
Hiroyuki Matsuda
○ Haruhiko Mimata
Nana Miyagawa
○ Tsutomu Yamagishi
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
Ryuto Murao
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
○ Masamichi Yokoshima
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda

∗ Reika Shimizu
∗ Yui Yuhara

Violas

◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
∗ Eri Kuribayashi
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
♯ Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu

Cellos

◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
♯ Junji Nakamura

Oboes

◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
∗ Shuhei Nakamura
Hitoshi Wakui

Clarinets

◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
∗ Hiroki Domen
Takashi Yamane

Bassoons

◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
∗ Shusuke Ouchi
Yuki Sato
Itaru Morita

Horns

◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trombones

◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

◎ Shoichi Kubo
☆ Toru Uematsu

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga

Librarians

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, ♯ Inspector, ∗ Intern)

PROGRAM

A

Concert No. 2042

NHK Hall

September
13(Sat) **6:00pm**
14(Sun) **2:00pm**

conductor	Fabio Luisi
piano	Yefim Bronfman
concertmaster	Sunao Goko

Ludwig van Beethoven
Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor* [38′]

I Allegro
II Adagio un poco moto
III Rondo: Allegro, ma non troppo

— **intermission** (20 minutes) —

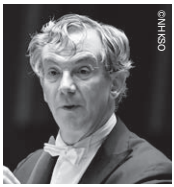
Franz Schmidt
Symphony No. 4 C Major [42′]

I Allegro molto moderato
II Adagio
III Molto vivace
IV Allegro molto moderato

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Fabio Luisi, conductor



Fabio Luisi hails from Genoa. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001 and became its Chief Conductor in September 2022. He performed Verdi's *Requiem* to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* for the orchestra's 2000th subscription concert in 2023. In 2024, he led the orchestra's Taiwanese tour, and then in May 2025, he successfully led its European tour scheduled in conjunction with Amsterdam's Mahler Festival at The Concertgebouw, the Prague Spring Festival and the Dresdner Musikfestspiele: the NHK Symphony Orchestra was the first Asian orchestra to appear at the Mahler Festival, performing the composer's Symphonies No. 3 and No. 4 to critical praise.

Currently the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra, he was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of New York's Metropolitan Opera, Chief Conductor of the Wiener Symphoniker, General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische

Staatsoper, Principal Conductor and Chief Conductor of the MDR-Sinfonieorchester, Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande, Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester and Artistic Director of the Grazer Symphonisches Orchester. He is also Music Director of Puglia's Festival della Valle d'Itria Martina Franca and Emeritus Conductor of Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai. He is a frequent guest of leading orchestras including the Berliner Philharmoniker, the Royal Concertgebouw Orchestra and the Saito Kinen Orchestra, opera houses and festivals worldwide.

In recording, his complete Nielsen symphonic cycle with the Danish National Symphony Orchestra was recognized with *Limelight* and Abbiati Awards in 2023, while its first volume was named Recording of the Year by *Gramophone*. He received a Grammy Award for his leadership of the last two operas of Wagner's *Ring* cycle at the Metropolitan Opera, as released on DVD. His first CD with the NHK Symphony Orchestra, *Bruckner: Symphony No. 8* (*1st version*) was released in May 2025.

He is an accomplished composer and maker of perfumes.

Yefim Bronfman, piano

©Dario Acosta

Born in Tashkent in the Soviet Union in 1958, Yefim Bronfman immigrated to Israel with his family in 1973, where he studied with pianist Arie Vardi, head of the Rubin Academy of Music at Tel Aviv University. In the United States, he studied at The Juilliard School, Marlboro School of Music and the Curtis Institute of Music, under Rudolf Firkušný, Leon Fleisher and Rudolf Serkin. His commanding technique, power and exceptional lyrical gifts have since made him internationally recognized as one of today's most acclaimed and admired pianists.

He works regularly with the world's greatest orchestras including Wiener Philharmoniker, Berliner Philharmoniker, Royal Concertgebouw Orchestra and New York Philharmonic under the baton of an illustrious group of conductors such as Fabio Luisi, Herbert Blomstedt, Daniel Barenboim, Riccardo Chailly, Zubin Mehta, Riccardo Muti, Simon Rattle and Andris Nelsons.

This is his first appearance with the NHK Symphony Orchestra in almost a quarter century since June 2001. He will perform for us Beethoven's majestic Fifth Concerto *Emperor*, a repertoire he has been very much at home with, particularly since he recorded all the composer's piano concertos and *Triple Concerto* together with the Tonhalle-Orchester Zürich under David Zinman to critical praise.

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*

Among many historic concerts left on record, one in particular held on December 22nd, 1808 in Vienna was highly significant, for the audience witnessed the world premieres of Beethoven's Symphonies No. 5 (*Destiny*) and No. 6 (*Pastorale*) besides the first Viennese performance of his Piano Concerto No. 4 with the composer as soloist. He set to work on Piano Concerto No. 5 around the end of this December, to complete it by the summer of 1809 in Vienna while the city was occupied by Napoleon's army. Deafening bombarding sounds are said to have damaged the already-decreased hearing of Beethoven who had to cover his ears and seek refuge in the cellar of his brother's house.

No. 5 is Beethoven's only piano concerto for which he couldn't serve as soloist at the premiere, as his ears had seriously deteriorated by then. Presumably because of that, he subsequently never wrote a new concerto for his instrument. This is also why there is no traditional cadenza (where a soloist improvises freely without the orchestra, towards the end of the sonata movement) in the No. 5. The cautious composer writes out all the cadential passages and reminds soloists on the score not to add any cadenza of their own.

No. 5 has an astounding, unheard-of beginning for a concerto: the soloist, backed up by the orchestra, gives a brilliant cadenza-like highlight before even the main sonata starts. Then the flowing grand first theme is contrasted with the crisp second theme introduced in a minor key. The middle movement is a sublime variation on the theme sung at the beginning by violins utilizing mutes, a devise used to make a softer sound. This movement is followed seamlessly without pause by the frisky finale in rondo sonata form. Towards the closing, the serene duet between timpani and piano leads to the majestic conclusion worthy of the byname Emperor, although the appellation didn't originate with Beethoven.

Franz Schmidt (1874–1939)

Symphony No. 4 C Major

Junior to Beethoven by almost a century, the Austrian musician Schmidt wore many hats as a composer, cellist, pianist, organist and conductor. Born into a German-Hungarian family in Pressburg (then a part of the Austro-Hungarian Empire, now Bratislava in Slovakia), Schmidt learned piano and organ before moving to Vienna in 1888 with his family. Two years later, he entered the Vienna Conservatory where he studied music theory with Robert Fuchs (Gustav Mahler's teacher) and cello under the tutelage of Ferdinand Hellmesberger, a member of the renowned Hellmesberger Quartet. Schmidt was fortunate to take some counterpoint lessons with Anton Bruckner (1824–1896) there as well.

The young graduate became a cello player in the Vienna Court Opera (from 1896 to 1914) and the Vienna Philharmonic Orchestra (from 1896 to 1911) working presumably in close cooperation with Mahler (1860–1911) who led the two closely linked institutions

around the same period. It seems that Mahler's daring, late-Romantic-style symphonies didn't particularly inspire Schmidt who had instead deep respect for the tradition of Austro-German Classicism and Romanticism. In contrast to the Vienna-born progressive Arnold Schönberg (1874–1951), the same age as him, Schmidt relied on the conventional tonal language over the course of his career. Partly due to these moderate stances, his compositions have been, on the whole, underestimated in music history, although he was highly ingenious without being a mere copy of his predecessors as shown in his Symphony No. 4.

The last of Schmidt's four symphonies, No. 4 (1933) was penned from 1932 as a requiem for his daughter Emma who lost her life in childbirth the same year. This explains its overall grievous atmosphere and the presence of a funeral march in it. The symphony was premiered at Vienna's Musikverein in 1934, five years prior to the composer's death at age 64 on the eve of World War II.

A peculiarity of No. 4 is the structure: it is a single-movement symphony with four sections performed without pause. As the final section serves as the recapitulation of the first section, the entire symphony with the two main themes could be considered a sonata as well. The opening sonata section immediately introduces the first theme, a long plaintive trumpet solo over twenty-two bars. This melody will recur throughout the symphony as a unifying material. The second theme, developed over harps, is passionate in nature. The following slow Adagio section is opened by an expressive cello solo before the music reaches a climax, a funeral march led by gloomily repetitive timpani rhythm. The third Scherzo section is in the feverish 6/8-time rhythm of "tarantella", an Italian trance folk dance evoking death. The final section recalls the cyclic melody at the start, this time on a French horn solo, and heads to a peaceful conclusion with the same melody on a trumpet solo as if to come full circle.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No. 2043

Suntory Hall

September
18 (Thu) **7:00pm**
19 (Fri) **7:00pm**

conductor	Fabio Luisi for a profile of Fabio Luisi, see p. 59
violin	María Dueñas
concertmaster	Sunao Goko

Toru Takemitsu
Three Film Scores [12′]

I *Music of Training and Rest* from *Jose Torres*
II *Funeral Music* from *Black Rain*
III *Waltz* from *Face of Another*

Ludwig van Beethoven
Violin Concerto D Major Op. 61 [50′]

I Allegro ma non troppo
II Larghetto
III Rondo: Allegro

— **intermission** (20 minutes) —

Felix Mendelssohn-Bartholdy
Symphony No. 4 A Major Op. 90,
Italienische (***Italian***) [27′]

I Allegro vivace
II Andante con moto
III Con moto moderato
IV Saltarello: Presto

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

María Dueñas, violin

©Felix Broede

Born in Granada, Spain in 2002, María Dueñas has emerged as a luminous talent in classical music, captivating audiences with her extraordinary range of tonal colours, impeccable technical prowess, and artistic maturity.

She produced a great sensation in 2021 by winning the Menuhin International Competition for Young Violinists. She has performed with the world's leading orchestras including the Philadelphia Orchestra, Cleveland Orchestra, Staatskapelle Berlin, Münchner Philharmoniker, Accademia Nazionale di Santa Cecilia and Orchestre de Paris alongside a constellation of esteemed conductors.

Upcoming highlights include debuts with the New York Philharmonic, Wiener Philharmoniker and Maestro Zubin Mehta.

Praised by *The New York Times* for her ability to breathe "new life into well-known pieces," she will perform Beethoven's Violin Concerto during her highly anticipated first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. Her debut album *Beethoven and Beyond* (2023) showcasing her remarkable interpretation of this concerto featuring cadenzas composed by herself, earned her the prestigious Opus Klassik Young Talent of the Year award in 2024.

She performs on a Nicolò Gagliano from 1774 on loan from Deutsche Stiftung Musikleben, and has also been entrusted with the Stradivarius "Camposelice" from 1710 by the Nippon Music Foundation.

Program Notes

Toru Takemitsu (**1930–1996**)

Three Film Scores

The next year 2026 will mark the 30th anniversary of the passing of Takemitsu, a pioneer and one of the first Japanese composers to be warmly welcomed abroad. His concerto *November Steps* (1967) for two Japanese traditional instruments, premiered in New York, helped to make Takemitsu's name known in the world.

The highly productive composer, a devoted cinephile as well, wrote the soundtrack for numerous movies and TV series, collaborating with leading directors including Akira Kurosawa (for *Dodes'ka-den* and *Ran*). For Takemitsu, film music was the perfect field to experiment with instruments—especially Japanese traditional ones—and idioms/styles/genres new to him, to utilize them later in his concert works. In so doing, he ushered in a new phase in Japanese film scoring.

In his later years, Takemitsu eagerly arranged his soundtracks for concert. *Three Film Scores*, a suite for string orchestra, was prepared in 1994–1995 and premiered at Gstaad's CineMusic Festival, Switzerland in 1995, a year before the composer's death. I ***Music of Training and Rest* from *Jose Torres*** is tinged with jazz. This is a rework of his score for *Jose Torres* (1959, directed by Hiroshi Teshigahara), a documentary on the Puerto Rican boxer filmed in New York. II ***Funeral Music* from *Black Rain*** is from the score for *Black Rain* (1989, by Shōhei Imamura) portraying survivors of the atomic bombing in Hiroshima. III ***Waltz* from *Face of Another***, melancholic and tuneful, is heard with German lyrics in the Kafkaesque movie *Face of Another* (1966, by Hiroshi Teshigahara) based on Kōbō Abe's intensely dramatic novel.

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Violin Concerto D Major Op. 61

In music history, not a few masterpieces have been unfavorably received at the outset, because of being ahead of the time and/or being first performed unideally. And Beethoven's Violin Concerto was a perfect example of that.

Op. 61 (1806) is the only violin concerto completed by Beethoven apart from two short *Romances* for violin and orchestra. It dates from his exceptionally productive period when his great masterpieces such as the Symphonies No. 4 and No. 5, the Piano Concerto No. 4 and the three *Razumovsky* string quartets were written. It was the composer's friend and violinist Franz Clement, the commissioner of the concerto, who played the solo part for the premiere in 1806 in Vienna. Beethoven reportedly finished writing it barely in time for the concert and Clement had to play it mostly at sight. The piece was hardly programmed again during the composer's lifetime. After Beethoven's death in 1844, the legendary violinist Joseph Joachim, well-known today as Johannes Brahms' best friend, performed it under the baton of Felix Mendelssohn (mentioned below). This successful event was the impetus for the revival of the piece.

The Violin Concerto's start with timpani solo, unwonted at the time, already tells us why this music perplexed people at the premiere. The unusual length of the first movement in sonata form might have surprised them, too. On top of that, they had to wait for as long as four minutes listening to the woodwinds introducing the pastoral first theme and the arched second theme, until the leading role—violin solo—finally entered. The slow movement is an equable variation on the theme given at the beginning by the strings utilizing mutes, a device used to make a softer sound. It ends with the soloist's brief cadenza (improvisatory passage) which is followed seamlessly without pause by the lively final movement in rondo form. It is opened by the solo violin stating instantly the folkish, recurrent main theme.

Felix Mendelssohn-Bartholdy (1809–1847)

Symphony No. 4 A Major Op. 90, *Italienische* (*Italian*)

Born and raised in northern Germany, Mendelssohn is known as a musician representative of early German Romanticism alongside Robert Schumann (1810–1856) and Franz Liszt (1811–1886). Gifted but short-lived (he died of a sudden death at age 38), Mendelssohn wore many hats: as a masterly composer, an excellent pianist, an inspirational conductor who led the prestigious Gewandhausorchester Leipzig, an indefatigable educator who founded the Leipzig Conservatory and a leader of the "revival" of J. S. Bach's works.

Mendelssohn's *Italienische* (*Italian*) Symphony No. 4, one of his most popular works, was the fruit of his trip to Italy as with Johannes Brahms' Piano Concerto No. 2 (1881) and Jean Sibelius' Symphony No. 2 (1902): Italy has always fascinated composers traveling from northern countries to stir their creativity with its luminous sunlight, beautiful views, abundant historical artworks and architecture as well as religious authority. As it was the custom of the time among wealthy upper classes in Europe, Mendelssohn in his

early twenties was sent on a European grand tour "to refine his own taste" (his own words). Having a gift for painting as well, he sketched diversified scenery in his journal during this journey.

The young traveler visited Venice and Florence in October 1830 to be exposed to Italian Renaissance and Baroque art. He then arrived in Rome coincidentally when the Vatican mourned the demise of Pope Pius VIII (Papacy: –November 1830) and celebrated the ascension of Pope Gregory XVI (February 1831–). Mendelssohn experienced Rome's renowned Carnival and the Papal choir singing at Easter services in the Sistine Chapel. And during this sojourn in Rome, he interacted with Hector Berlioz (1803–1869)—the latter would complete his *Harold en Italie* in 1834—, penned *the Hebrides Overture*—a musical souvenir from his trip to Scotland—and developed the idea for the *Italian* Symphony. He also stayed over Naples and Milan before leaving for Switzerland and then France. Completed in 1833, the *Italian* Symphony was premiered under the composer's own baton in London the same year.

Interestingly, the *Italian* Symphony doesn't just sound sunny. It instead shows a vivid contrast between light and shade alternating major with minor keys, which provides a profoundness for this mature symphony. The opening sonata movement lets the violins immediately sing the sunshiny first theme in A major, before the serenely hopping second theme is given by the woodwinds. The slow second movement in D minor, a rondo in ABABA form, evokes a prayerful procession, while the third movement in A major is a minuet-like dance having the idyllic central section with horn calls. A surprise is the finale which starts and concludes in A minor but not A major. Here we hear a saltarello, an Italian high-speed dance in triple time traditionally danced at Rome's Carnival, and a tarantella, a feverish three-beat folk dance originally from southern Italy.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 62

PROGRAM

C

Concert No. 2044

NHK Hall

September
26 (Fri) 7:00pm
27 (Sat) 2:00pm

conductor	Ryan Bancroft
baritone	Thomas Hampson★
concertmaster	Yosuke Kawasaki

Gustav Mahler
Des Knaben Wunderhorn
(***The Boy's Magic Horn***)★
— ***Rheinlegendchen***
(***Little Rhine Legend***) [3′]
Wo die schönen Trompeten blasen
(***Where the Fair Trumpets Sound***) [7′]
Das irdische Leben (***Earthly Life***) [3′]
Das himmlische Leben
(***Heavenly Life***) [9′]
Urlicht (***Primeval Light***) [5′]

— intermission (20 minutes) —

Jean Sibelius
***Four Legends*,**
symphonic poem Op. 22 [51′]
I Lemminkäinen and the Maidens of Saari
II The Swan of Tuonela
III Lemminkäinen in Tuonela
IV The Return of Lemminkäinen

- All performance durations are approximate.

C

26 & 27. SEPT. 2025

Artist Profiles

Ryan Bancroft, conductor

©Per Morton

Born in 1989 in California, USA, Ryan Bancroft is one of the up-and-coming conductors gaining the greatest attention. Currently, he serves as the Chief Conductor of Sweden's Royal Stockholm Philharmonic Orchestra (2023–), the Principal Conductor of the UK's BBC National Orchestra of Wales (2021–), and the Artist in Association of Finland's Tapiola Sinfonietta (2021–). After opening his tenure as Chief Conductor in Stockholm in 2023, Bancroft's second season 2024/25 with his orchestra includes performances of Mahler and Bruckner symphonies alongside world premieres of new pieces, whilst working

with renowned soloists such as Leif Ove Andsnes, Maxim Vengerov and Víkingur Ólafsson.

He studied trumpet at the California Institute of the Arts, before going on to receive a Master of Music in orchestral conducting from the Royal Conservatoire of Scotland. While studying, he played trumpet with the BBC Scottish Symphony Orchestra on many occasions. He continued his conducting studies in the Netherlands and is a graduate of the prestigious Nationale Master Orkestdirectie run jointly by the Conservatorium van Amsterdam and the Royal Conservatoire The Hague.

Since his success at the prestigious Malko Competition for Young Conductors in 2018, where he won the First Prize, he has established himself as a regular guest conductor with leading orchestras including the Boston Symphony Orchestra (at the Tanglewood Festival), Los Angeles Philharmonic, Cleveland Orchestra, Philharmonia Orchestra, London Philharmonic Orchestra, BBC Symphony Orchestra, Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, City of Birmingham Symphony Orchestra and the Ensemble intercontemporain.

For his NHK Symphony Orchestra debut, the chief of the two leading Nordic orchestras will conduct the Finnish composer Sibelius's symphonic poem *Four Legends*, whilst collaborating with the world-renowned baritone Thomas Hampson, his compatriot, in Mahler's *Des Knaben Wunderhorn* (*The Boy's Magic Horn*) songs.

C

26 & 27. SEPT. 2025

Thomas Hampson, baritone

©Jiyang Chen

American baritone Thomas Hampson, born in 1955, has long been recognized as one of the most innovative and multifaceted musicians of our time.

With more than eighty operatic roles in his repertoire, he shines across a vast array of styles, languages and periods. From Rossini's elegance to the dramatic depths of Verdi and the modern innovations of contemporary masterpieces, he has portrayed characters that span the full spectrum of human experience and emotion.

A celebrated "ambassador of song," he is a tireless advocate for the art of the recital, where his ability to connect with audiences through the intimacy of song has made him a beloved figure on stages worldwide. His programs often highlight the rich tradition of German Lieder, particularly the works of Mahler, Schubert, Brahms and Schumann, as well as American song, a genre he has championed with unparalleled dedication.

This is his first appearance with the NHK Symphony Orchestra in a long interval since November 1999 when he shared the stage with the veteran Wolfgang Sawallisch conducting the orchestra on the 50th anniversary of Richard Strauss's death. This time, he will sing under American rising conductor Ryan Bancroft in Mahler's *Des Knaben Wunderhorn* (*The Boy's Magic Horn*) songs.

Gustav Mahler (1860–1911)

Des Knaben Wunderhorn (*The Boy's Magic Horn*) — *Rheinlegendchen* (*Little Rhine Legend*), *Wo die schönen Trompeten blasen* (*Where the Fair Trumpets Sound*), *Das irdische Leben* (*Earthly Life*), *Das himmlische Leben* (*Heavenly Life*), *Urlicht* (*Primeval Light*)

Born in Bohemia, then in the Austrian Empire, Mahler was a leading opera conductor during his lifetime, assuming particularly the directorship of the Vienna Court Opera (today the Vienna State Opera). Deeply read in literature as well, he left us some important song cycles with orchestral accompaniment and symphonies requiring voices as represented by No. 8 *Symphonie der Tausend* (*Symphony of a Thousand*) (1907) and *Das Lied von der Erde* (*The Song of the Earth*) (1909).

In the case of his symphonies No. 2 (1894), No. 3 (1896) and No. 4 (1900), they are collectively known as the *Wunderhorn* (*Magic Horn*) Symphonies, for they are inextricably bound up with Mahler's own song series *Des Knaben Wunderhorn* (*The Boy's Magic Horn*) for voice and orchestra. The songs were composed based on German folk poems from a collection of the same title edited by Achim von Arnim and Clemens Brentano. Our baritone Thomas Hampson, a leading figure in Mahler's vocal music, will perform five songs from the series for us.

Rheinlegendchen (***Little Rhine Legend***) is a monologue of a woman about tossing her ring into the Rhine to get her lover's attention.

Wo die schönen Trompeten blasen (***Where the Fair Trumpets Sound***), resounding with trumpet retreat command, is a dialogue between a woman and the spectre of her lover, a soldier killed in battle.

Das irdische Leben (***Earthly Life***) is a child's repetitive imploration for food, who ends up dying of starvation. The melody is quoted in the *Purgatory* movement of Mahler's Symphony No. 10.

Das himmlische Leben (***Heavenly Life***) is about the joy of heaven ("We wallow in heavenly pleasures" … "Delicious apples, delicious pears and delicious grapes!"). Mahler will remake this song as the finale for soprano and orchestra in his Symphony No. 4. The chorale-like melody of these twin pieces is also heard in the *What the Angels Tell Me* movement (IV) of his Symphony No. 3.

Urlicht (***Primeval Light***) is a profound prayer ("Man lies in greatest pain, I would rather be in heaven" … "Dear God will give me a light, To light my way to the eternal blessed life"). This song forms the fourth movement for alto and orchestra of Mahler's *Resurrection* Symphony No. 2.

Jean Sibelius (1865–1957)

Four Legends, symphonic poem Op. 22

The timeless pride of Finland, Sibelius—five-year junior to Mahler—left his double mark on music history, as an important symphonist following the pan-European tradition and as the establisher of the Finnish national identity in music. An early successful example of the latter is *Four Legends* from *the Kalevala* (also known as *Lemminkäinen Suite* after the eponymous hero), a set of four symphonic poems premiered in 1896 (the composer will make revisions to them later). *The Kalevala* is Finland's mythological epic which led a national awakening through the second half of the nineteenth century and thus paved the way for the country's independence from Russian rule in 1917.

I ***Lemminkäinen and the Maidens of Saari*** establishes the home key of the suite (E-flat major). Opened by a dreamy horn call, the music eventually peaks at a jauntily merry moment of maidens dancing. The handsome lady-killer Lemminkäinen is on an island to seduce and win the heart of all the maidens but Kyllikki, the belle of the island. He abducts her and persuades her to be his wife.

II ***The Swan of Tuonela*** is the most popular of the cycle. Tuonela is, according to the first edition of the score, "Hades surrounded by a large river of black water" on which "the swan of Tuonela glides majestically and sings." Sibelius entrusted the role of this singing swan to the English horn: indeed, its pear-shaped bell, its long main body and its bocal (curved thin tube that the reed is attached to) remind us of a swan, whilst its plaintive tone fits the piece's mysterious, mournful setting well. Depicting the scene with a vivid imagination, the composer, an eminent violinist as well, displays great ability as an ingenious orchestrator: especially, his meticulous treatment of the strings—divided into thirteen parts at the beginning—produces a remarkable effect throughout the piece.

III ***Lemminkäinen in Tuonela*** full of swift eerie tremolos (tremulous effect) on strings, is exceptionally dramatic. Here our hero heads down to the Hades of Finnish mythology in order to shoot the sacred swan with a poisoned arrow. This is a trial set by the wicked queen of the Pohjola for him to take her daughter for his new wife. However, on the shore his enemy, a blind herdsman, kills Lemminkäinen whose body is pushed into the river and dismembered. Informed of his death, his mother arrives at Tuonela to gather his body parts and then a magical power brings him to life.

Headed "con fuoco"(fierily), IV ***The Return of Lemminkäinen*** starts in C minor. It is a galloping piece in perpetual motion which depicts the hero on his way back home following his mother's persuasion. Towards the end, the piece returns to the cycle's "home" key, E-flat major, to conclude in a triumphant manner.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 62

The Subscription Concerts Program 2025–26

2025 09

A — Concert No. 2042
September 13 (Sat) 6:00pm, 14 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*
Franz Schmidt Symphony No. 4 C Major

Fabio Luisi, conductor
Yefim Bronfman, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B — Concert No. 2043
September 18 (Thu) 7:00pm, 19 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Takemitsu *Three Film Scores*
Beethoven Violin Concerto D Major Op. 61
Mendelssohn Symphony No. 4 A Major Op. 90, *Italienische* (*Italian*)

Fabio Luisi, conductor
María Dueñas, violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C — Concert No. 2044
September 26 (Fri) 7:00pm, 27 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Mahler *Des Knaben Wunderhorn* (*The Boy's Magic Horn*)
—Rheinlegendchen (*Little Rhine Legend*)*,
Wo die schönen Trompeten blasen (*Where the Fair Trumpets Sound*)*,
Das irdische Leben (*Earthly Life*)*, *Das himmlische Leben* (*Heavenly Life*)*, *Urlicht* (*Primeval Light*)*
Sibelius *Four Legends*, symphonic poem Op. 22

Ryan Bancroft, conductor
Thomas Hampson, baritone*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2025 10

A — Concert No. 2046
October 18 (Sat) 6:00pm, 19 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Stravinsky *Symphony of Psalms*
Mendelssohn Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52, *Lobgesang* (*Hymn of Praise*)*

Herbert Blomstedt, conductor
Christina Landshamer, soprano*
Marie Henriette Reinhold, mezzo soprano* **Tilman Lichdi**, tenor*
Swedish Radio Choir, chorus **Michel Tabachnik**, cover conductor

Ordinary	Youth
S 15,000	S 7,000
A 12,500	A 6,000
B 10,000	B 5,000
C 8,000	C 4,000
D 6,500	D 3,000
E 4,500	E 2,000

B — Concert No. 2045
October 9 (Thu) 7:00pm, 10 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Grieg *Aus Holbergs Zeit*, suite Op. 40 (*Holberg Suite*)
Nielsen Flute Concerto
Sibelius Symphony No. 5 E-flat Major Op. 82

Herbert Blomstedt, conductor
Sébastian Jacot, flute **Eva Ollikainen**, cover conductor

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C — Concert No. 2047
October 24 (Fri) 7:00pm, 25 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83
Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90

Herbert Blomstedt, conductor
Leif Ove Andsnes, piano **Tatsuya Shimono**, cover conductor

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

2025 11

A — Concert No. 2048
November 8 (Sat) 6:00pm, 9 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Messiaen *Trois petites liturgies de la Présence Divine* (*Three Little Liturgies of the Divine Presence*)*
Holst *The Planets*, suite Op. 32

Charles Dutoit, conductor
Yu Kosuge, piano* **Motoko Oya**, ondes martenot*
Tokyo Opera Singers, female chorus

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

B — Concert No. 2050
November 20 (Thu) 7:00pm, 21 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Schumann *Manfred*, incidental music Op. 115—Overture
Mozart Piano Concerto No. 25 C Major K. 503
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Rafael Payare, conductor
Emanuel Ax, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C — Concert No. 2049
November 14 (Fri) 7:00pm, 15 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 150th Anniversary of Maurice Ravel's Birth

Ravel *Pavane pour une Infante défunte* (*Pavane for a Dead Princess*)
Ravel *Le tombeau de Couperin*, suite (*The Grave of Couperin*)
Ravel *Daphnis et Chloé*, ballet (*Daphnis and Chloe*)*

Charles Dutoit, conductor
Nikikai Chorus Group, chorus*

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2025 12

A — Concert No. 2051
November
29 (Sat) 6:00pm
30 (Sun) 2:00pm
Program A of the December subscription concerts will be held in November.
NHK Hall

Shostakovich Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77
Zemlinsky *Die Seejungfrau,* fantasy (*The Mermaid*)

Fabio Luisi, conductor
Leonidas Kavakos, violin

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B — Concert No. 2052
December
4 (Thu) 7:00pm
5 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Fujikura *Ocean Breaker* for Orchestra—in memoriam Pierre Boulez (2025)
[Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere]
Franck *Variations symphoniques* for Piano and Orchestra (*Symphonic Variations*)*
Saint-Saëns Symphony No. 3 C Minor Op. 78, *Symphonie avec orgue* (*Organ Symphony*)

Fabio Luisi, conductor **Tom Borrow**, piano* **Takeshi Kondo**, organ

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C — Concert No. 2053
December
12 (Fri) 7:00pm
13 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Chopin Piano Concerto No. 1 E Minor Op. 11 or No. 2 F Minor Op. 21
Nielsen Symphony No. 4 Op. 29, *The Inextinguishable*

Fabio Luisi, conductor
The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition, piano

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

2026 01

A — Concert No. 2054
January
17 (Sat) 6:00pm
18 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mahler Symphony No. 6 A Minor, *Tragische* (*Tragic*)

Tugan Sokhiev, conductor

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

B — Concert No. 2056
January
29 (Thu) 7:00pm
30 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mussorgsky / **Shostakovich** *Khovanshchina*, opera
—*Dawn over the Moscow River*, prelude
Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102
Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100

Tugan Sokhiev, conductor
Kanon Matsuda, piano

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C — Concert No. 2055
January
23 (Fri) 7:00pm
24 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Debussy *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*)
Dutilleux Cello Concerto, *Tout un monde lointain...* (*A Whole Distant World...*)
Rimsky-Korsakov *The Tale of Tsar Saltan*, suite Op. 57
Stravinsky *The Firebird*, ballet suite (1919 edition)

Tugan Sokhiev, conductor
Michiaki Ueno, cello

	Ordinary	Youth
S	11,000	5,500
A	9,500	4,500
B	7,600	3,500
C	6,000	2,800
D	5,000	1,800
E	3,000	1,400

2026 02

A — Concert No. 2057
February
7 (Sat) 6:00pm
8 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, *Rheinische* (*Rhenish*)
Wagner *Götterdämmerung*, opera—*Siegfrieds Rheinfahrt, Siegfrieds Tod und Trauermarsch*, *Brünnhildes Schlussgesang: Starke Scheite schichtet mir dort**
(*Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine Journey, Siegfried's Funeral March, Brünnhilde's Immolation*)

Philippe Jordan, conductor
Tamara Wilson, soprano*

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

B — Concert No. 2059
February
19 (Thu) 7:00pm
20 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53
Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11

Jakub Hrůša, conductor
Josef Špaček, violin

	Ordinary	Youth
S	12,000	6,000
A	10,000	5,000
B	8,000	4,000
C	6,500	3,250
D	5,500	2,750

C — Concert No. 2058
February
13 (Fri) 7:00pm
14 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series
Kodály Variations on a Hungarian Folksong *The Peacock*
Hummel Trumpet Concerto E Major
Mussorgsky / **Konoe** *Pictures at an Exhibition*, suite
Gergely Madaras, conductor
Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet

	Ordinary	Youth
S	10,000	5,000
A	8,500	4,000
B	6,500	3,100
C	5,400	2,550
D	4,300	1,500
E	2,200	1,000

2026 04

A

Concert No. **2060**

April
11 (Sat) 6:00pm
12 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1
Bruckner Symphony No. 9 D Minor

Fabio Luisi, conductor
Jan Vogler, cello

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B

Concert No. **2061**

April
16 (Thu) 7:00pm
17 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622
Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor

Fabio Luisi, conductor
Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. **2062**

April
24 (Fri) 7:00pm
25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Toyama *Divertimento for Orchestra*
Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26
Ifukube *Ballata Sinfonica* (*Symphonic Ballad*)
Britten *Peter Grimes*, opera—*Four Sea Interludes* Op. 33a

Tatsuya Shimono, conductor **Kyohei Sorita**, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026 05

A

Concert No. **2064**

May
23 (Sat) 6:00pm
24 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102
Brahms / **Schönberg** Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25

Michael Sanderling, conductor
Christian Tetzlaff, violin
Tanja Tetzlaff, cello

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B

Concert No. **2063**

May
14 (Thu) 7:00pm
15 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Kazuo Yamada *Also sang ein Jüngling*, small symphonic poem (*Thus Sang a Young Man*)
Hartmann *Concerto funebre* (*Funereal Concerto*)*
Sugata *Symphonic Overture* Op. 6
Hindemith *Mathis der Maler,* symphony (*Matthias the Painter*)

Kazuki Yamada, conductor **Suyoen Kim**, violin*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. **2065**

May
29 (Fri) 7:00pm
30 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Vasks Commission Work for NHK Symphony Orchestra [Japan Premiere]
Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43

Andris Poga, conductor

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026 06

A

Concert No. **2067**

June
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel* (*The Mastersingers of Nuremberg—Prelude*)
Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453
Bartók *Concerto for Orchestra*

Jaap van Zweden, conductor
Conrad Tao, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B

Concert No. **2066**

June
4 (Thu) 7:00pm
5 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Honegger *Pastorale d'été*, symphonic poem (*Summer Pastoral*)
Berlioz *Les nuits d'été*, songs Op. 7 (*Summer Nights*)
Iber *Escales* (*Ports of Call*)
Debussy *La mer*, three symphonic sketches (*The Sea*)

Stéphane Denève, conductor
Gaëlle Arquez, mezzo soprano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. **2068**

June
19 (Fri) 7:00pm
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Sibelius *Andante festivo*
Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47
Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44

Tadaaki Otaka, conductor
HIMARI, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

WEB連載

NHK交響楽団のあゆみ 1951–2026

THE HISTORY OF NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

岩野裕一

WEB連載
「NHK交響楽団のあゆみ」は
こちらから

2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ

NHK財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ
◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めていきます。

ステラnet

NHK財団の最新情報はこちらから

NHK
こども音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が
ホームページで
ご覧いただけます

https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

“N響が学校にやってきた”をキャッチフレーズにNHKと共催して、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「**NHKこども音楽クラブ**」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「**N響ほっとコンサート**」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「**N響といっしょ！ 音を楽しむ!!**」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「**指揮研究員**」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「**N響アカデミー**」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員
井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者
ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
コントラバス：桑原孝太朗　クラリネット：白井宏典
打楽器：菊池幸太郎
（2025年9月1日現在）

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、クラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、飲食店、ショッピングセンターで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に密着した活動を行っています。最近は各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や**高齢者施設**を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また**被災地**にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、**海外での演奏**にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マーラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への**外国人留学生**招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や**医療**などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等

理事長	中野谷公一
常務理事	三溝敬志　大曽根 聡子
理事	相川直樹　内永ゆか子　岡田知之　杉山博孝　銭谷眞美　田辺雅泰　團 宏明　毛利 衛
監事	春原雄策　濵村和則
評議員	稲葉延雄　江頭敏明　樺山紘一　菅原 直　清野 智　田中宏暁　檀 ふみ　坪井節子 根本拓也　前田昭雄　三浦 惺　山名啓雄　渡邊 修

事務局

演奏制作部

岩渕一真　高木かおり　高橋 啓
丸山千絵　沖 あかね　上原 静
石井 康　内山弥生　木村英代
利光敬司　徳永匡哉　小倉康平

企画プロモーション部

森下文典　黒川大亮
猪股正幸　三浦七菜子
吉賀亜希
宮崎則匡

経営管理部

野村 歩　吉田麻子
浅田武志　杉山真知子
目黒重治　長津紗弥
山本能寛

技術主幹

尾澤 勉

芸術主幹

西川彰一

団友

名誉コンサートマスター

堀 正文

コンサートマスター

海野義雄
川上久雄
篠崎史紀
徳永二男
堀 伝
山口裕之

ヴァイオリン

板橋 健
梅澤美保子
大澤 浄
大林修子
大松八路
金田幸男
川上朋子
木全利行
窪田茂夫
黒柳紀明
公門俊之
齋藤真知亜
酒井敏彦
清水謙二
鈴木弘一
田渕 彰
田中 裕
鶴我裕子
中瀬裕道
永峰高志
根津昭義
堀江 悟
前澤 均
宮里親弘
武藤伸二
村上和邦
蓬田清重

ヴィオラ

大久保淑人
小野富士
梯 孝則
河野昌彦
菅沼準二
店村眞積
田渕雅子
中竹英昭
三原征洋
村山 弘
山田雄司

チェロ

岩井雅音
木越 洋
齋藤鶴吉
三戸正秀
銅銀久弥
丹羽経彦
平野秀清
藤本英雄
茂木新緑

コントラバス

井戸田善之
志賀信雄
佐川裕昭
新納益夫

フルート

菅原 潤
細川順三
宮本明恭

オーボエ

青山聖樹
北島 章
浜 道晃
茂木大輔

クラリネット

磯部周平
加藤明久
横川晴児

ファゴット

岡崎耕治
霧生吉秀
菅原恵子

ホルン

大野良雄
中島大之
樋口哲生
松崎 裕
山田桂三

トランペット

井川明彦
北村源三
来馬 賢
関山幸弘
津堅直弘
栃本浩規
福井 功
佛坂咲千生

トロンボーン

伊藤 清
神谷 敏
栗田雅勝
三輪純生
吉川武典

テューバ

多戸幾久三
原田元吉

打楽器

有賀誠門
岡田知之
瀬戸川 正
百瀬和紀

ピアノ

本荘玲子

理事長

曽我 健
田畑和宏
野島直樹
日向英実
木田幸紀
森 茂雄
今井 環
根本佳則
今村啓一

役員

加納民夫
唐木田信也
斉藤 滋
原 武
山崎大樹

事務局

稲川 洋
入江哲之
金沢 孝
小林文行
清水永一郎
中馬 究
出口修平
芳賀由明
望戸一男
諸岡 淳
吉田博志
渡辺 克
渡辺克己

フィルハーモニー2025年9月号｜第97巻 第6号
2025年9月1日発行　ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL：(03) 5793-8111 / FAX：(03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集：(一財)NHK財団
取材・編集：㈱アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン：寺井恵司

印刷：佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE

NHKのすべてがひとつに

ワンストップのインターネットサービス

2025年10月1日からスタート！

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などを
スマホやパソコン、ネット対応テレビなど、みなさまの環境に合わせてご提供します。

NHK ONE

NHKのすべてがひとつに　ワンストップのインターネットサービス

WEB（HP）	同時配信（ラジオ同時配信）	見逃し配信（ラジオ聴き逃し配信）	番組関連情報（ニュース記事・動画など）
アプリ	NHKプラス（テレビ用・スマホ用）	ニュース・防災（スマホ用）	for School（スマホ用）
	らじる★らじる（スマホ用）	ゴガク（スマホ用）	

（グレーの部分は受信契約対象外のサービスで、これまでと変わらずご利用いただけます）

※記載のアプリ名は10月1日に変更の可能性があります　※国際放送サービス「NHK WORLD-JAPAN」はこれまでと変わらずご利用いただけます

「NHK ONE」のサービス利用にあたって
- 世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません。
- 受信契約を締結されていない方が利用された場合は、ご契約の手続きが必要です。

※「らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です

詳しくはこちら　NHK ONE インフォメーションサイト
www.nhk.or.jp/nhkone

NHK

〈デジタル読み放題サービス配信中〉
雑誌『目の眼』電子増刊5号
特集 **陶片 かけらのたのしみ**

〈紙版&デジタル版　9月16日発売〉
雑誌『目の眼』10·11月号
特集 **名古屋刀剣博物館 サムライコレクション**

秋のアートフェア（東京美術倶楽部、京都美術倶楽部、金沢美術倶楽部ほか）
リレー連載「美の仕事」　村治佳織（クラシックギタリスト）

骨董 古美術の愉しみをつたえるウェブマガジン
menomeonline.com

目の眼

名匠×俊英

N響と奏でる名曲の響宴

沼尻 竜典

©Yui Ueno

岡本 誠司

N響ベストクラシックス

ロッシーニ：歌劇「ウィリアム・テル」序曲

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26

ドヴォルザーク：交響曲第8番 ト長調 作品88

NHK交響楽団

©NHK交響楽団

2025年10月13日［月・祝］15:00開演

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

［全席指定］S席 ¥7,000　A席 ¥6,500　B席 ¥4,000

チケット予約
お問い合わせ

かつしかシンフォニーヒルズ ☎03-5670-2233 https://www.k-mil.gr.jp

〒124-0012 東京都葛飾区立石6-33-1　※京成線青砥駅下車徒歩5分

※税込・未就学児入場不可　※モーツァルトホール バルコニー席はステージが見づらい場合や聞きづらい場合があります

※公演内容は都合により変更になる場合があります

チケット好評販売中

ひとりを思う、みんなのメディアへ。
放送100年

NHK 音楽祭 2025
NHK MUSIC FESTIVAL

10月3日(金) 19:00開演
＊18:10～ N響メンバーによる弦楽四重奏のプレコンサートあり

NHK交響楽団
指揮：エヴァ・オリカイネン
トランペット：児玉隼人
ピアノ：ソフィア・リュウ
ラヴェル／ラ・ヴァルス　トマジ／トランペット協奏曲
サン・サーンス／ピアノ協奏曲第2番 ト短調 作品22
R.シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲 作品59 TrV 227

共催：NHK交響楽団　協賛：岩谷産業

©Nikolaj Lund

N響初共演の若き才能が織りなす
色彩豊かなプログラム

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

写真提供：NHK交響楽団

10月5日(日) 16:00開演
シンフォニア・ヴァルソヴィア
指揮：クリスティアン・アルミンク
ピアノ：反田恭平、小林愛実

Ministerstwo Kultury i Dziedzictwa Narodowego
INSTYTUT ADAMA MICKIEWICZA

ベートーベン／歌劇「フィデリオ」作品72 から 序曲
パデレフスキ／創作主題によるポーランド幻想曲 作品19（ピアノ：反田恭平）
ショパン／ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11（ピアノ：小林愛実）

©Shumpei Ohsugi

2021年ショパン国際コンクール入賞者の二人が
シンフォニア・ヴァルソヴィアと奏でる
ポーランドの魂

©Bartek Barczyk

10月20日(月) 19:00開演
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
指揮：セミヨン・ビシュコフ
スメタナ／連作交響詩「わが祖国」

©Umberto Nicoletti
©Petra Hajsk

伝統と格式を誇る名門オーケストラが
巨匠と紡ぐ、チェコの神髄

NHKホール

前売券 好評販売中

入場料（消費税込）	公　演	公演日	開演	終演予定	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-29席
	NHK交響楽団	10/ 3（金）	19:00	21:00	12,000	10,000	9,000	7,000	5,000	3,500	2,000
	シンフォニア・ヴァルソヴィア	10/ 5（日）	16:00	18:00	22,000	19,000	16,000	13,000	11,000	6,000	3,000
	チェコ・フィルハーモニー管弦楽団	10/20（月）	19:00	20:30	22,000	19,000	16,000	13,000	11,000	6,000	3,000

※最新の販売情報は、各プレイガイドにてご確認ください。

前売券
イープラス　https://eplus.jp/nhk/ 〈インターネット〉
チケットぴあ（Pコード 297-370）　https://w.pia.jp/t/nhkfes/ 〈インターネット〉　※車いす席は、チケットぴあにて販売いたします。
GETTIIS（ゲッティーズ）　https://www.gettiis.jp/ 〈インターネット〉　※電子チケット「チケットれすQ」でも購入いただけます。

●お問い合わせ
ハローダイヤル
050-5541-8600（9:00～20:00 無休）

NHKホームページ
https://nhk.jp/event

NHKプロモーションホームページ
https://www.nhk-p.co.jp/

主催：NHK　NHKプロモーション　協賛：Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社　MIZUHO みずほ銀行

明電舎 presents

名曲コンサート 2025

N 響

音楽で描くノスタルジア、ドラマティックな心の旅

指揮：大友直人
Naoto Otomo, conductor

©Rowland Kirishima

チェロ：鳥羽咲音
Sakura Toba, cello

©JulianWeasly

名 曲

ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
Dvořák / Cello Concerto B Minor Op. 104

シベリウス／交響曲 第2番 ニ長調 作品43
Sibelius / Symphony No. 2 D Major Op. 43

2025年10月29日［水］7:00pm ｜ サントリーホール

■ 発売開始：6月27日［金］10:00am　■ N響定期会員先行発売：6月23日［月］10:00am

■ 料金（税込）

一般		ユースチケット(29歳以下)	
SS	¥8,500	SS	¥4,200
S	¥6,500	S	¥3,200
A	¥5,000	A	¥2,500
B	¥3,500	B	¥1,700
C	¥2,500	C	¥1,200

※定期会員は一般料金から10％割引

■ 前売所

- WEBチケットN響：https://nhkso.pia.jp
- N響ガイド：0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター：0570-55-0017
  suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ：pia.jp/t/nhkso
- e+（イープラス）：eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット：l-tike.com/nhkso

［お問い合わせ］
N響ガイド 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm（営業日はN響ホームページをご覧ください）

※ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。　※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。　※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。　※未就学児のご入場はお断りしています。　※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。　※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛：MEIDEN 株式会社 明電舎　主催：99th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

かんぽ生命 presents

N響第九

Special Concert

99th NHKSO NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

2025年12月26日(金)
7:00pm | サントリーホール

Friday, December 26, 2025 Suntory Hall

バッハ／前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV 552
Bach Prelude and Fugue E-flat Major BWV 552
オルガン：近藤 岳
Takeshi Kondo, organ

ベートーヴェン
交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, *Choral*

一般：
S ¥20,000 A ¥16,500 B ¥13,000 C ¥9,000
ユースチケット（29歳以下）：
S ¥10,000 A ¥8,200 B ¥6,500 C ¥4,500
※全て税込価格

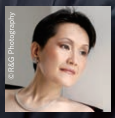
チケット発売開始：9月23日（火・祝）10:00am
N響定期会員先行発売日：9月19日（金）10:00am
※定期会員は一般料金から10%割引

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502
（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）

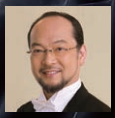
© David Duchon Doris

指 揮：レナード・スラットキン
Leonard Slatkin, conductor

ソプラノ
中村恵理
Eri Nakamura, soprano


© R&G Photography

メゾ・ソプラノ
藤村実穂子
Mihoko Fujimura, mezzo soprano



テノール
福井 敬
Kei Fukui, tenor

バリトン
甲斐栄次郎
Eijiro Kai, baritone

合唱：新国立劇場合唱団
New National Theatre Chorus, chorus

前売所
- WEBチケットN響 ..... https://nhkso.pia.jp
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター..... 0570-55-0017 suntory.jp/HALL
- チケットぴあ ..... pia.jp/t/nhkso
- e+（イープラス） ..... eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット ..... l-tike.com/nhkso

WEBチケット N響

●ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

JP INSURANCE かんぽ生命

主催：NHK交響楽団
特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

99th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 第9

ベートーヴェン
交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, *Choral*

©Nico Rodamel

指揮：レナード・スラットキン

ソプラノ：
中村 恵理

©JSC Photography
メゾ・ソプラノ：
藤村 実穂子

テノール：
福井 敬

バリトン：
甲斐 栄次郎

合唱：新国立劇場合唱団

2025年
12/20（土）4:00pm ｜ 12/21（日）2:00pm
12/23（火）7:00pm* ｜ 12/24（水）7:00pm

NHKホール NHK Hall

*23日公演はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。
プログラムは他の日程と同一です。

お問い合わせ
N響ガイド：0570-02-9502（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）
NHK厚生文化事業団：03-3476-5955（23日公演のみ、平日10:00am～6:00pm）

主催：NHK／NHK交響楽団
主催（23日）：NHK／NHK厚生文化事業団

協賛：みずほ証券株式会社
はごろもフーズ株式会社
株式会社明電舎

チケット発売開始
9月23日（火・祝）10:00am
N響定期会員先行発売日：9月19日（金）10:00am

料金（税込）

一般	S ¥17,000	A ¥13,500	B ¥10,000	C ¥7,500	D ¥5,000
ユースチケット（29歳以下）	S ¥8,500	A ¥6,750	B ¥5,000	C ¥3,750	D ¥2,500

※定期会員は一般料金から10％割引

前売所

WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp	e+（イープラス）	eplus.jp/nhkso
N響ガイド	0570-02-9502	ローソンチケット	l-tike.com/nhkso
チケットぴあ	pia.jp/t/nhkso		

●ユースチケット（29歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド（23日公演のみNHK厚生文化事業団）へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

Iwatani

水素で夢を実現。

2025年大阪・関西万博
水素の船から見える未来

時代はカーボンニュートラルへ。その夢に向け、私たちは切り拓いた。
水素をつくり、はこび、つかう。
その一つ一つのチャレンジが実を結び夢への軌跡を描いていく。
2025年、水素エネルギーが大きく動き出す。
水素でつなごう。人と、世界と、そして、夢を。

船の仕組みやルートはこちらから

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO 2025

岩谷産業は、
2025年大阪・関西万博を
応援しています。

©Expo 2025

Iwatani
岩谷産業株式会社

Philharmony 9
フィルハーモニー
第97巻第6号
ISSN 1344-5693
定価300円 消費税込み